

3 市民による個別事業評価

3 市民による個別事業評価

3.1 個別事業評価

今年度の個別事業評価については、市民全体を対象に、3つの施策・事業に対する評価・意見を伺うこととし、「2 市民による市政評価」の調査票に合冊し、併せて実施した。

従って、調査対象、回答率、回答者の属性については、市民による市政評価の結果と同様である（P4～6を参照）。

3.1.1 若者チャレンジ応援プロジェクトについて

（企画部 若者チャレンジ推進室）

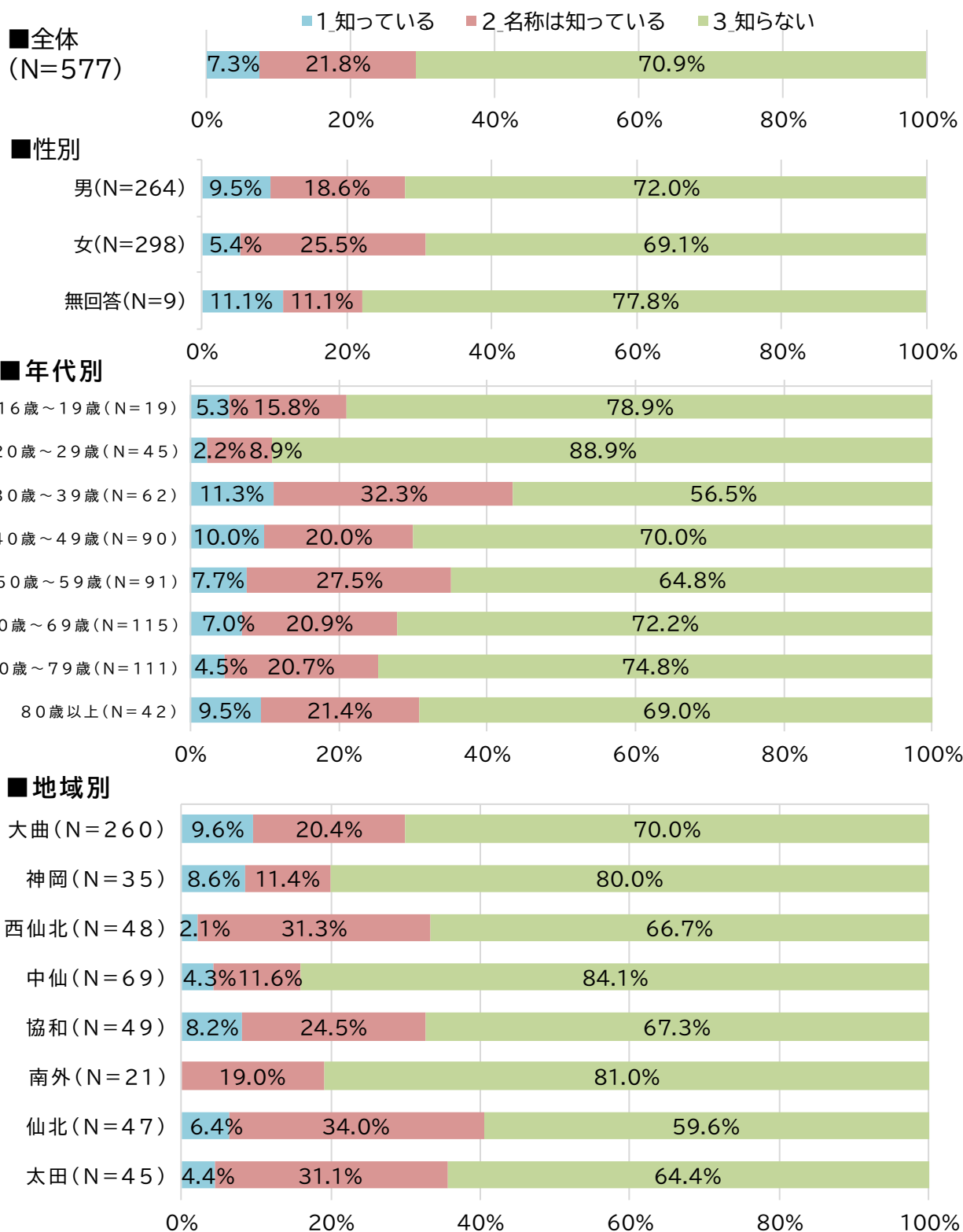
- ◆ 調査目的： 市では、チャレンジする若者を総合的にサポートするため、「若者チャレンジ応援プロジェクト」を展開しており、起業や経営をはじめとする様々な相談に対応する窓口として「だいせん Labo」を設置したほか、若者チャレンジ応援補助金による支援や、高校生や大学生などを対象にしたイベントの開催など、若者がチャレンジできる環境づくりを推進している。

本調査では、「だいせん Labo」をはじめ、これまでの取組に関するご意見を伺い、今後の取組の参考とする。

【問1】あなたは、相談窓口である「だいせん Labo」を知っていますか。

- 全体では「知っている」「名称は知っている」を合わせた割合は 29.1%となっており、3割程の方が「だいせん Labo」を認知している状況にあるが、取組を含めて「知っている」と回答した方は7.3%に留まっているほか、約7割の方は「知らない」と回答している。
- 性別で見ると、「知っている」「名称は知っている」を合わせた割合は女性が 30.9%と、男性の 28.1%を 2.8 ポイント上回っている。
- 年代別で見ると、「知っている」「名称は知っている」を合わせた割合は 30代が 43.6%と最も高く、続いて 50代が 35.2%となっている。一方で、20代では、11.1%と最も低く、10代が 21.1%と続いている。
- 地域別で見ると、「知っている」「名称は知っている」を合わせた割合は仙北地域が 40.4%と最も高く、太田地域、西仙北地域、協和地域、大曲地域が同程度の割合で続いている。一方で、中仙地域が 15.9%と最も割合が低く、南外地域が 19.0%と続いている。

【問1】あなたは、相談窓口である「だいせん Labo」を知っていますか。

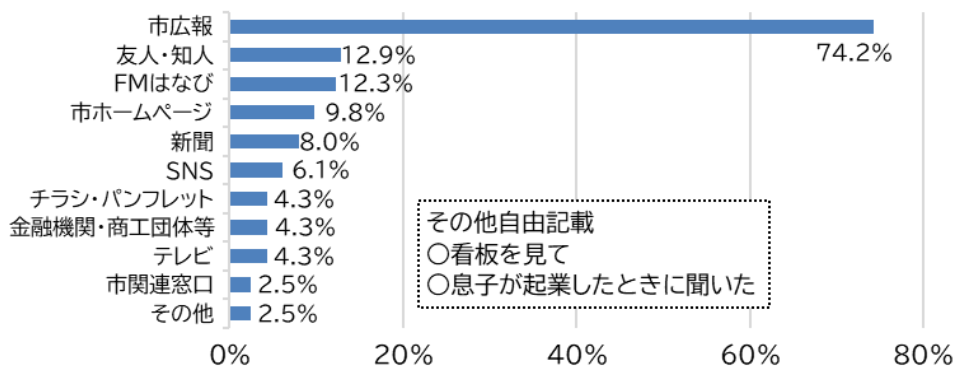


【問2】問1で「1.知っている 2.名称は知っている」のいずれかを選んだ方に伺います。

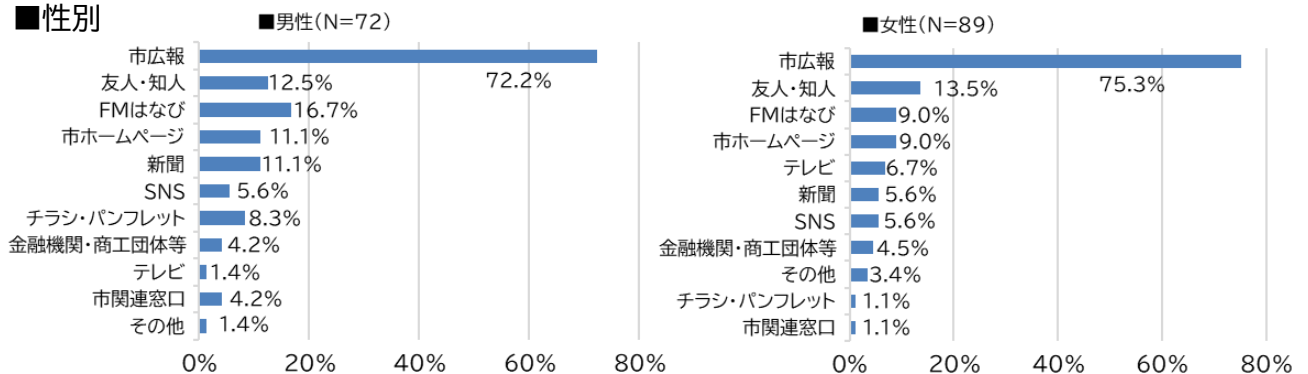
あなたは、「だいせん Labo」の情報を何で知りましたか。（3つまで）

- 全体では、「市広報」が74.2%と突出しており、続いて「友人・知人」「FMはなび」となっている。
- 性別で見ると、男女ともに「市広報」の割合が最も高く、女性の割合が75.3%で、男性の72.2%を3.1ポイント上回っている。「市広報」に次いで、女性は「友人・知人」の13.5%が最も高く、次いで「FMはなび」「市ホームページ」となっている。一方で、男性は「FMはなび」が16.7%、次いで「友人・知人」「市ホームページ」「新聞」となっている。
- 年代別で見ると、いずれの年代においても「市広報」の割合が最も高く、特に60歳以上では79.5%となっている。「市広報」に次ぐ割合をそれぞれみてみると、16歳から39歳では、「友人・知人」「SNS」の割合が高く、続いて「テレビ」となっている。40歳から59歳では、「友人・知人」「市ホームページ」の割合が高く、続いて「FMはなび」「SNS」となっている。60歳以上では、「FMはなび」が19.2%と高く、続いて「新聞」「友人・知人」となっている。

■全体(N=163)

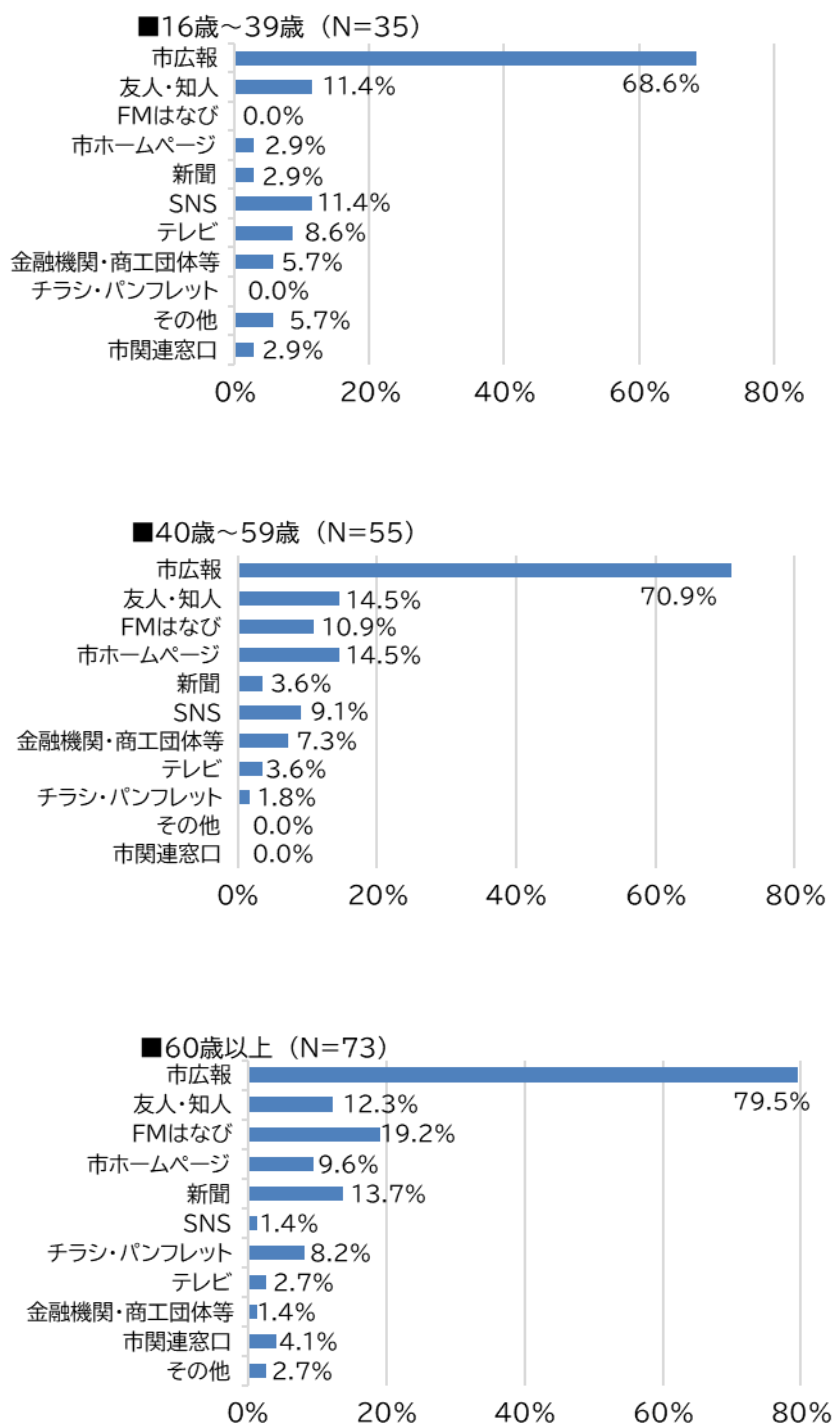


■性別



【問2】問1で「1.知っている 2.名称は知っている」のいずれかを選んだ方に伺います。
あなたは、「だいせんLabo」の情報を何で知りましたか。（3つまで）

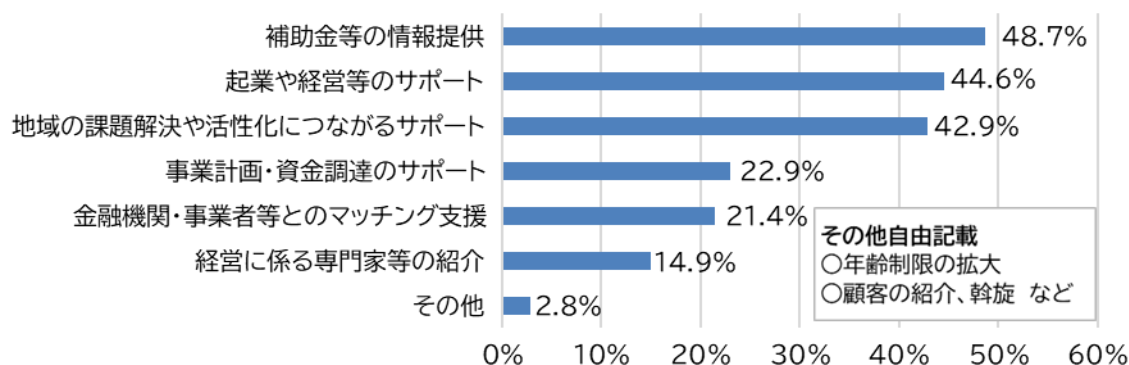
■年代別



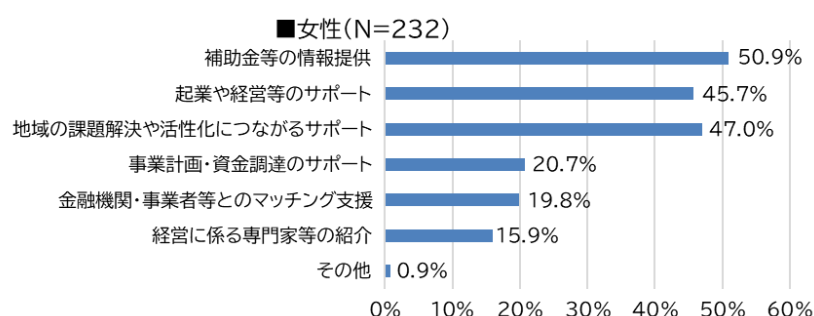
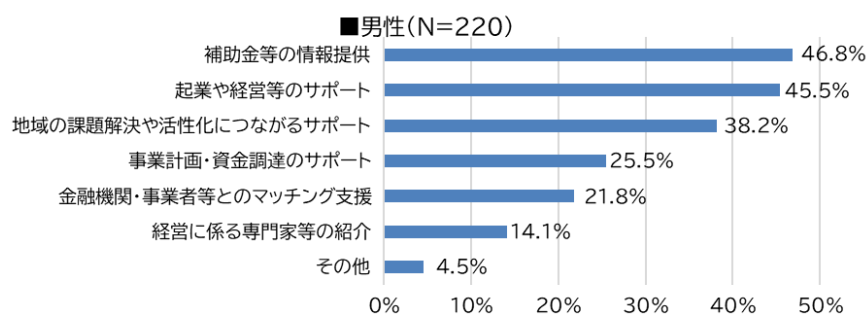
【問3】あなたが、若者の相談窓口である「だいせん Labo」に期待するサポートや、充実してほしい取組は何ですか。（3つまで）

- 全体では、「補助金等の情報提供」の割合が48.7%と最も高く、続いて「起業や経営等のサポート」「地域の課題解決や活性化につながるサポート」となっている。
- 性別で見ると、男女ともに「補助金等の情報提供」の割合が最も高く、男性は「起業や経営等のサポート」が45.5%と2番目に高くなっている。一方で、女性は「地域の課題解決や活性化に繋がるサポート」が47.0%と2番目に高く、続いて「起業や経営等のサポート」となっている。
- 年代別で見ると、16歳から39歳では、「地域の課題解決や活性化につながるサポート」の割合が47.5%と最も高い。40歳から59歳では、「起業や経営等のサポート」が49.7%。60歳以上では、「補助金等の情報提供」が54.3%と最も高くなっている。

■全体(N=462)

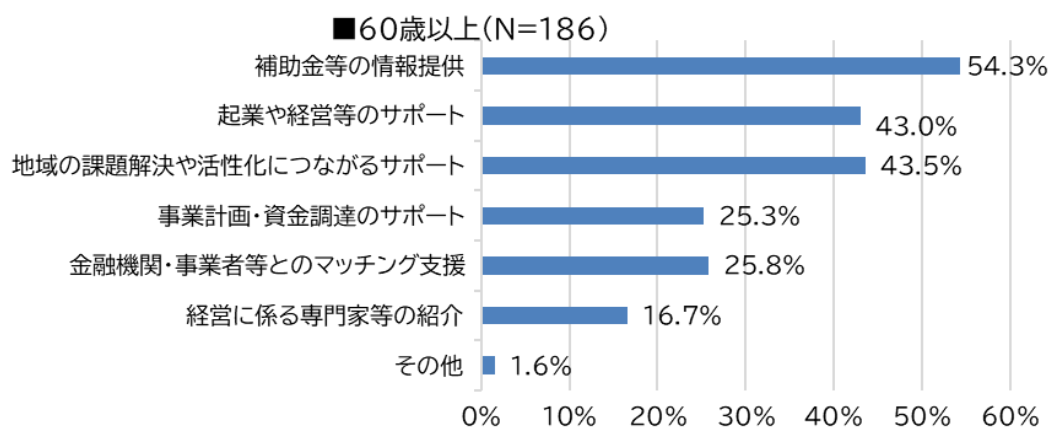
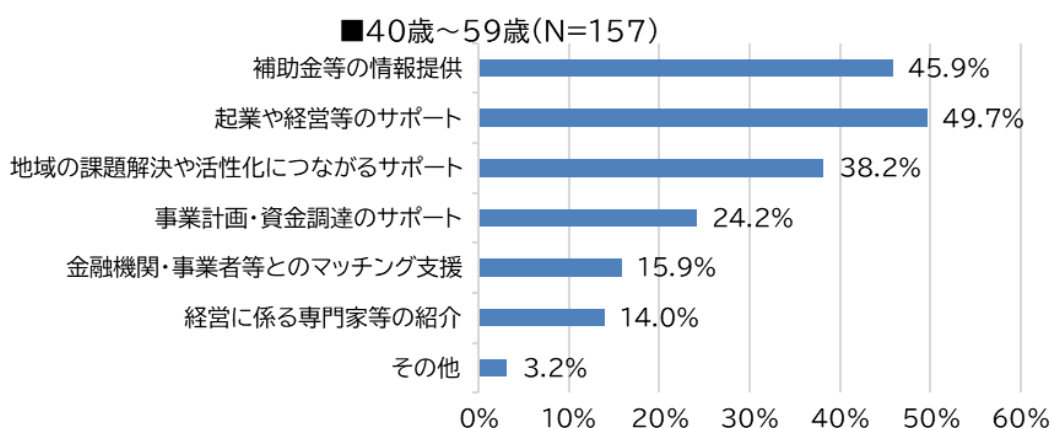
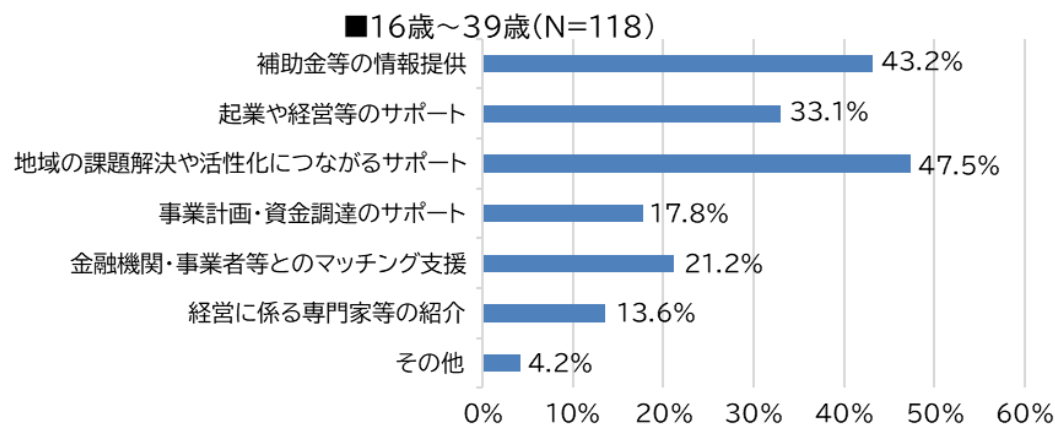


■性別



【問3】あなたが、若者の相談窓口である「だいせん Labo」に期待するサポートや、充実してほしい取組は何ですか。（3つまで）

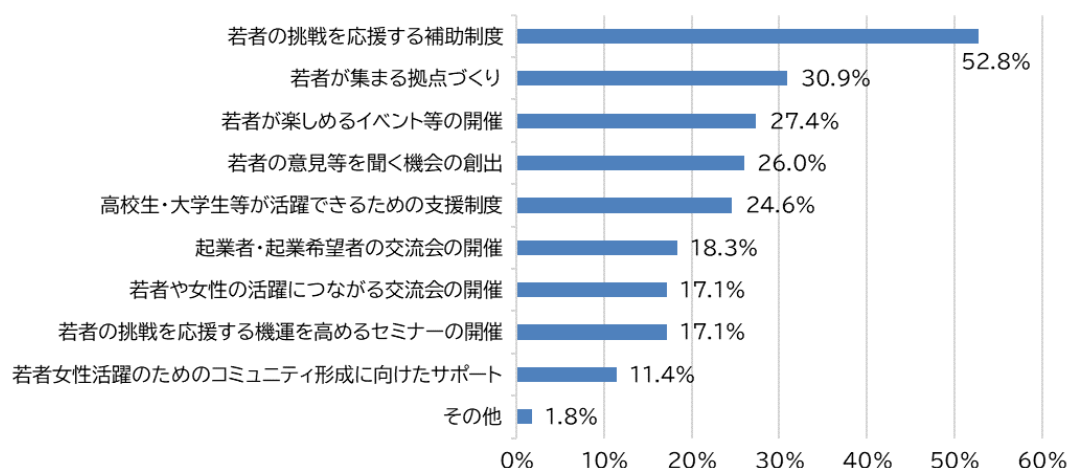
■年代別



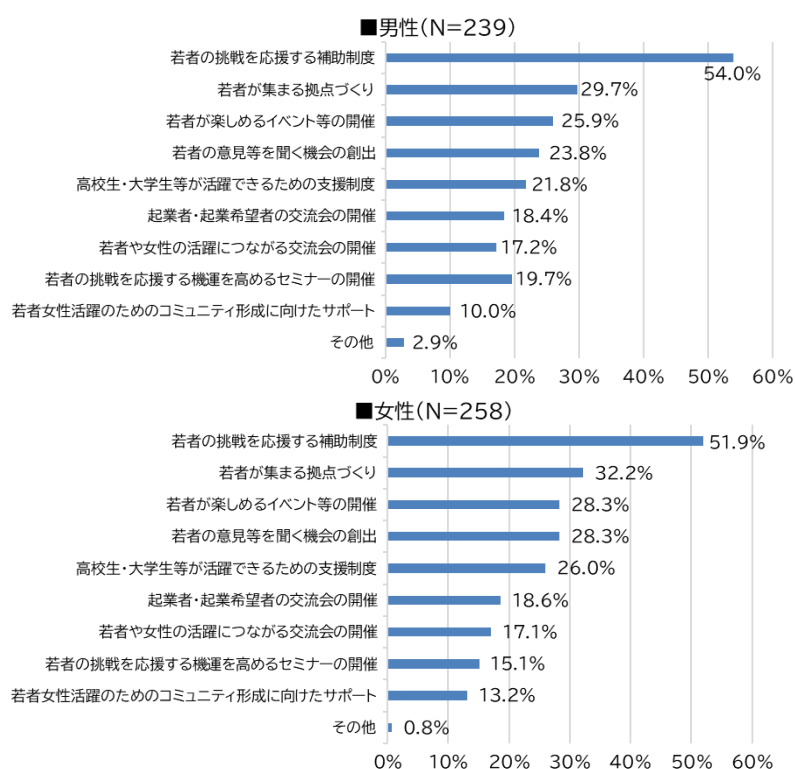
【問4】「だいせん Labo」では、相談対応のほか、若者がチャレンジしやすい環境づくりを推進するため、様々な取組を展開していますが、あなたはどのような取組が必要と考えますか。
(3つまで)

- 全体では、「若者の挑戦を応援する補助制度」が52.8%と最も高く、続いて「若者が集まる拠点づくり」「若者が楽しめるイベント等の開催」「若者の意見等を聞く機会の創出」となっている。
- 性別で見ると、男女ともに「若者の挑戦を応援する補助制度」「若者が集まる拠点づくり」「若者が楽しめるイベント等の開催」の割合が比較的高くなっている。
- 年代別で見ると、全ての年代で「若者の挑戦を応援する補助制度」が最も高くなっている。特に、40歳から59歳の回答割合は、58.7%と他の年代と比較して最も高くなっている。

■全体(N=508)

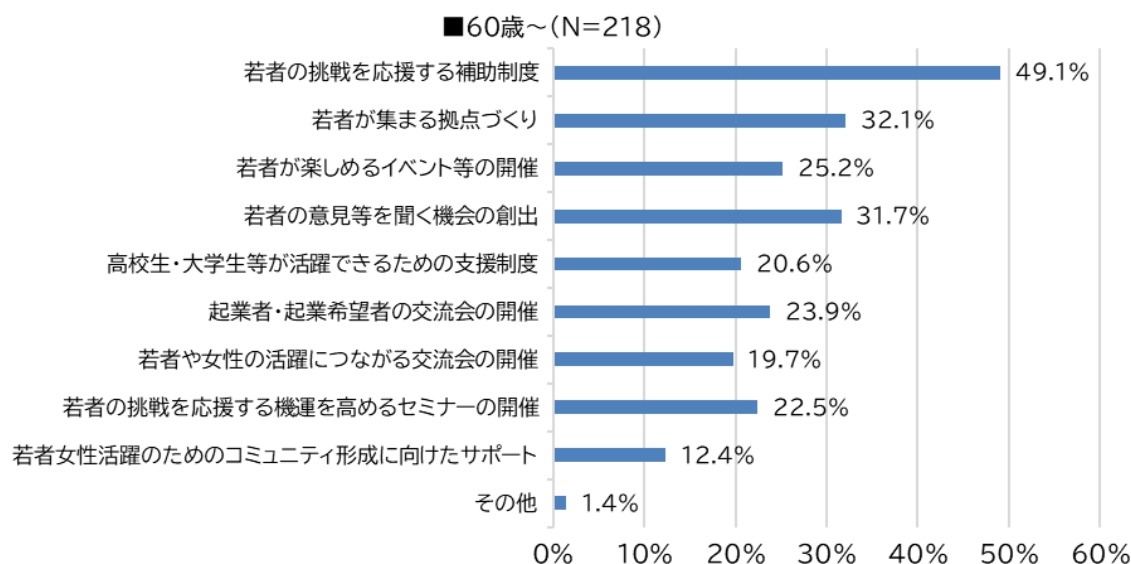
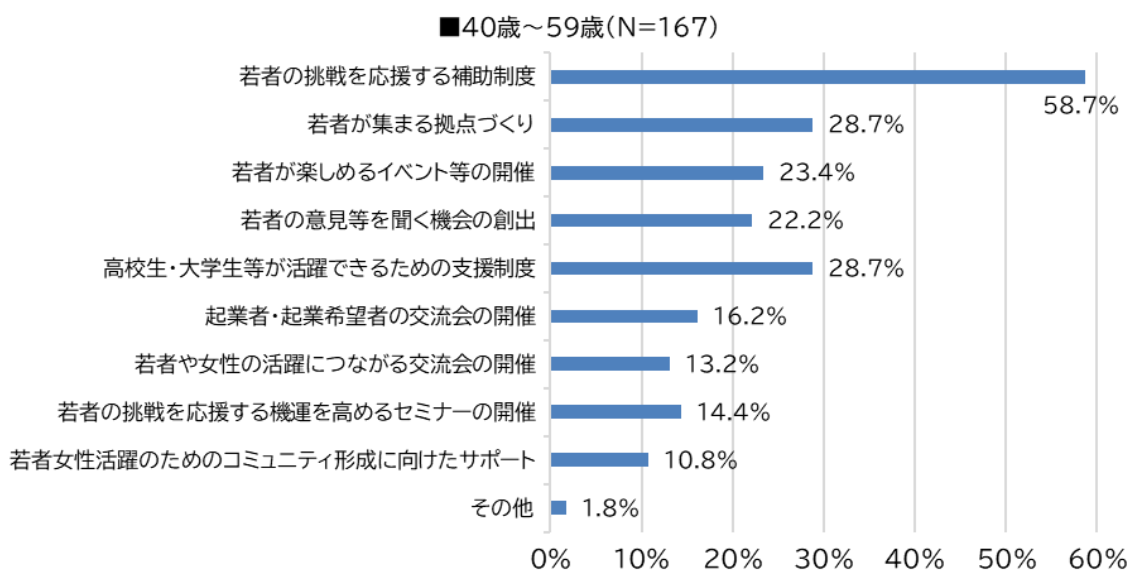
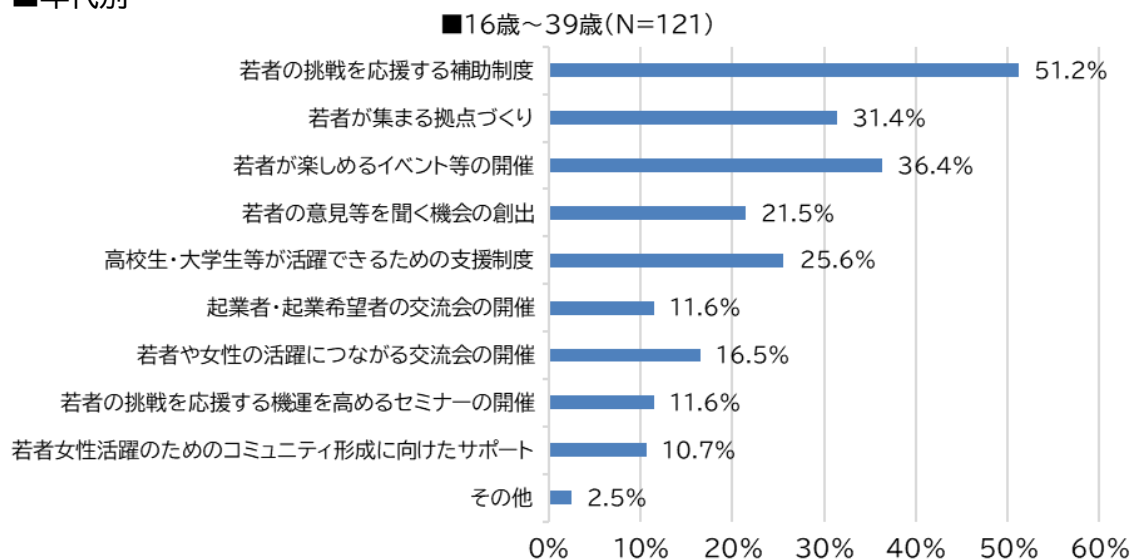


■性別



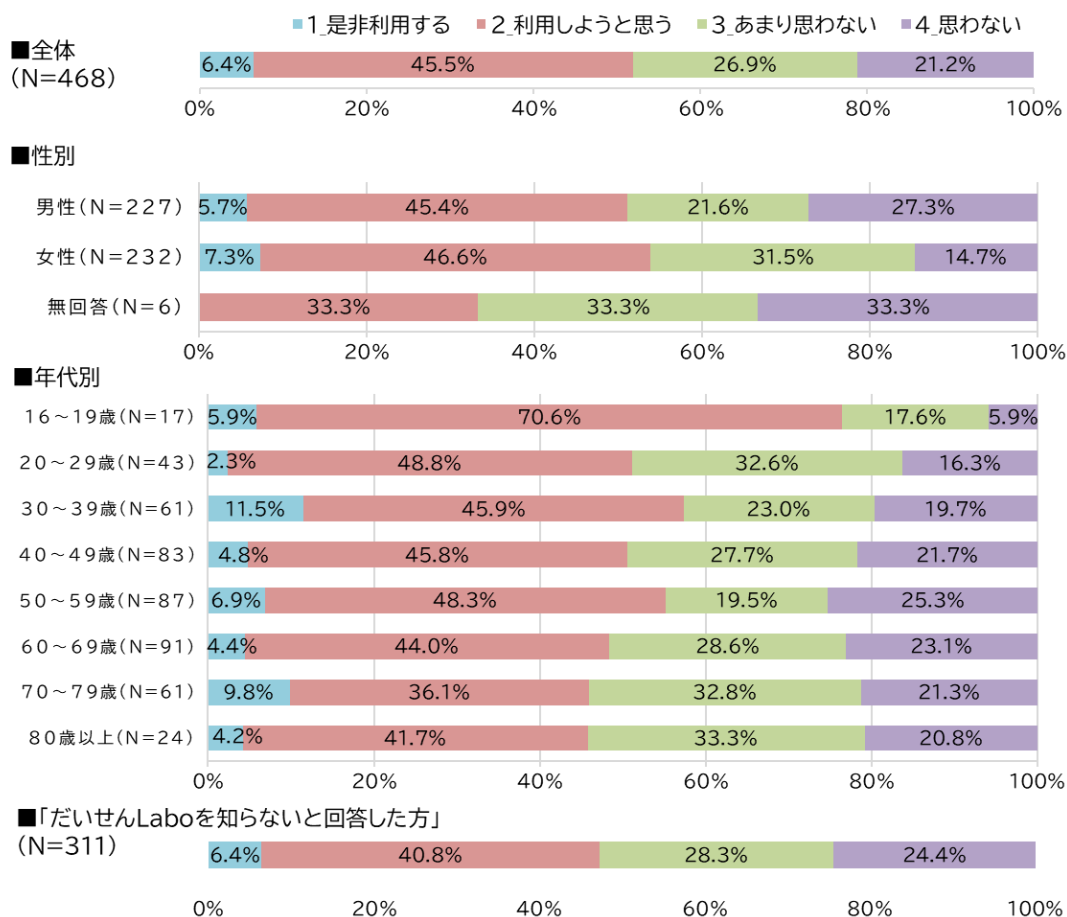
【問4】「だいせん Labo」では、相談対応のほか、若者がチャレンジしやすい環境づくりを推進するため、様々な取組を展開していますが、あなたはどのような取組が必要と考えますか。
(3つまで)

■年代別



【問5】今後、起業やイベントの企画、地域課題解決の取組等を検討することになった場合、「だいせん Labo」を利用すると思いますか。

- 全体では、「是非利用する」の6.4%と「利用しようと思う」の45.5%をあわせて、利用意向のある方が5割以上を占めている。
- 性別で見ると、「是非利用する」と「利用しようと思う」をあわせた割合は、男性が51.1%、女性が53.9%となっており、大きな差が見られない。
- 年代別で見ると、「是非利用する」と「利用しようと思う」割合は、16歳から19歳が76.5%と最も高く、続いて30歳から39歳、50歳から59歳となっており、年代が上がるに連れて割合が低くなる傾向にある。
- 問1で「だいせん Labo」を知らないと回答した方のうち、「是非利用する」と「利用しようと思う」を合わせた割合は47.2%となっている。



◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

- 問1のだいせん Labo の認知度については、全体の7割以上の方がだいせん Labo を知らないと答えている。年代別にみると、20代で「知らない」と回答した割合が88.9%と最も高く、30代を境に年代が上がるにつれて認知度が高くなる傾向が伺える。また、地域別で見ると、神岡地域、中仙地域、南外地域が20%以下と低く、それ以外の地域では全体の認知度の29.1%を上回っている。
- 問2では、問1でだいせん Labo を知っている人と回答した方に対し、だいせん Labo を知り得た機会について質問したところ、「市の広報」の割合が74.2%と突出しており、「友人・知人」「FM はなび」「市ホームページ」「新聞」の順に約10%で続いている。個別に見ると、「市の広報」は、年代が上がるにつれて、割合が高くなる傾向にある。また、「チラシ・パンフレット」や「新聞」「FM はなび」は、60歳以上の割合が高くなっている。「SNS」は、16歳から39歳までが11.4%、40歳から59歳までが9.1%と比較的高い数値であるのに対して、60歳以上は1.4%と低い割合となっている。

以上の結果から、これまで以上にだいせん Labo の認知度向上に向けた取組が必要であり、市広報や新聞、チラシ、SNSなどの様々な媒体の活用や機会を通じて、年代や地域などに合わせた情報発信の強化に取り組んでいく。特に本プロジェクトの主要なターゲットである10代・20代に対する認知度の向上策については、重点的に取り組んでいく。

- 問3のだいせん Labo に期待するサポートについては、5つの選択項目のうち、「補助金等の情報提供」「起業や経営等のサポート」「地域の課題解決や活性化につながるサポート」の割合が高い状況となっている。だいせん Labo では、これまでの相談対応でも国・県をはじめ、財団、金融機関等、様々な団体と連携を図りながら必要とするサポートを行ってきたところであり、昨年10月には、地域おこし協力隊を任用し、相談体制の強化を図っている。引き続き、様々な相談に対応できるよう、サポート体制のさらなる充実に取り組んでいく。
- 問4のだいせん Labo に期待する取組については、選択項目のうち「若者の挑戦を応援する補助制度」の割合が突出しており、特に現行の補助制度の対象外となる40歳～59歳の回答割合が最も高い。次点となる項目を年代ごとにみると、16歳～39歳は「若者が楽しめるイベント等の開催」、40歳～59歳は「若者が集まる拠点づくり」「高校生・大学生等が活躍できるための支援制度」、60歳以上が「若者が集まる拠点づくり」となっている。

以上の結果から、現行の補助制度を適宜見直ししながら若者のチャレンジを応援する支援制度の充実を図るとともに、若者の意見や考えを伺いながら、若者が集まる場づくりなど、ニーズに合わせた新たな取組も展開する。

- 問5のだいせん Labo の今後の利用については、回答者の51.9%が利用したいと答えている。年代別に見ると、10代の割合が高く、年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向にある。また、問1でだいせん Labo を知らないと答えた方のうち、47.2%の方が利用したいと答えている。

以上より、だいせん Labo の潜在的な利用希望者が一定数いるものと推察されることから、だいせん Labo の役割や取組を具体的に分かりやすく発信し、10代の学生をはじめとする新たな利用者の掘り起こしに取り組んでいく。

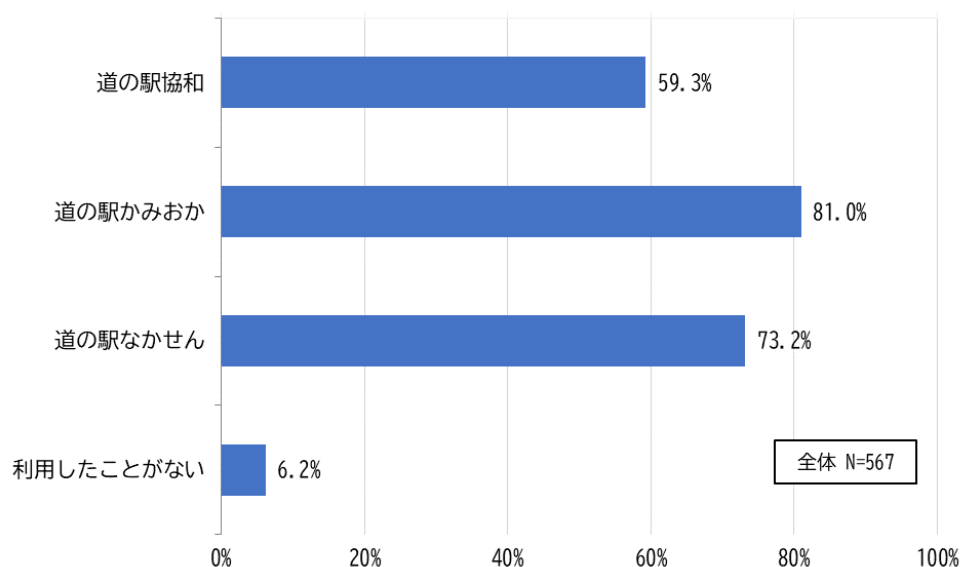
3.1.2 市内道の駅（協和・かみおか・なかせん）について （観光文化スポーツ部 観光施設課）

- ◆ 調査目的：市内3つの「道の駅」は、道路利用者の休憩施設として、また地域活性化の拠点として多くの利用があるが、施設の経年劣化や利用者ニーズの変化への対応が課題となっている。このことから市内の道の駅に対するご意見を伺い、今後の運営改善や将来的なあり方などを検討していくための参考とする。

【問1】あなたは、市内の道の駅を利用したことがありますか。（複数回答可）

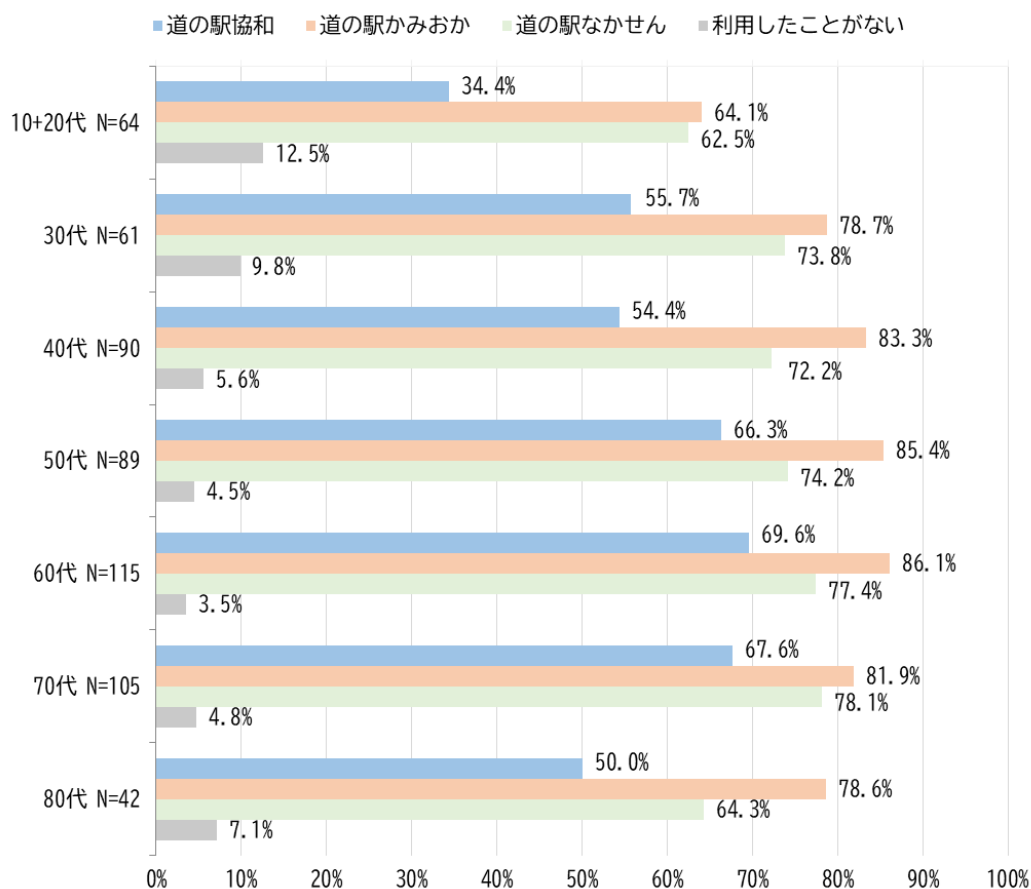
- 全体では、利用したことがある方のうち、「道の駅かみおか」と回答した方が81.0%と最も多く、次に「道の駅なかせん」と回答した方が73.2%となっている。
- 年代別では、全ての年代で「道の駅かみおか」と回答した方が最も多く、次に回答が多かったのは「道の駅なかせん」であった。
- 地域別では、居住地域にある道の駅の利用割合が高く、居住地域に隣接している道の駅の利用割合も高い傾向となっている。

■全体

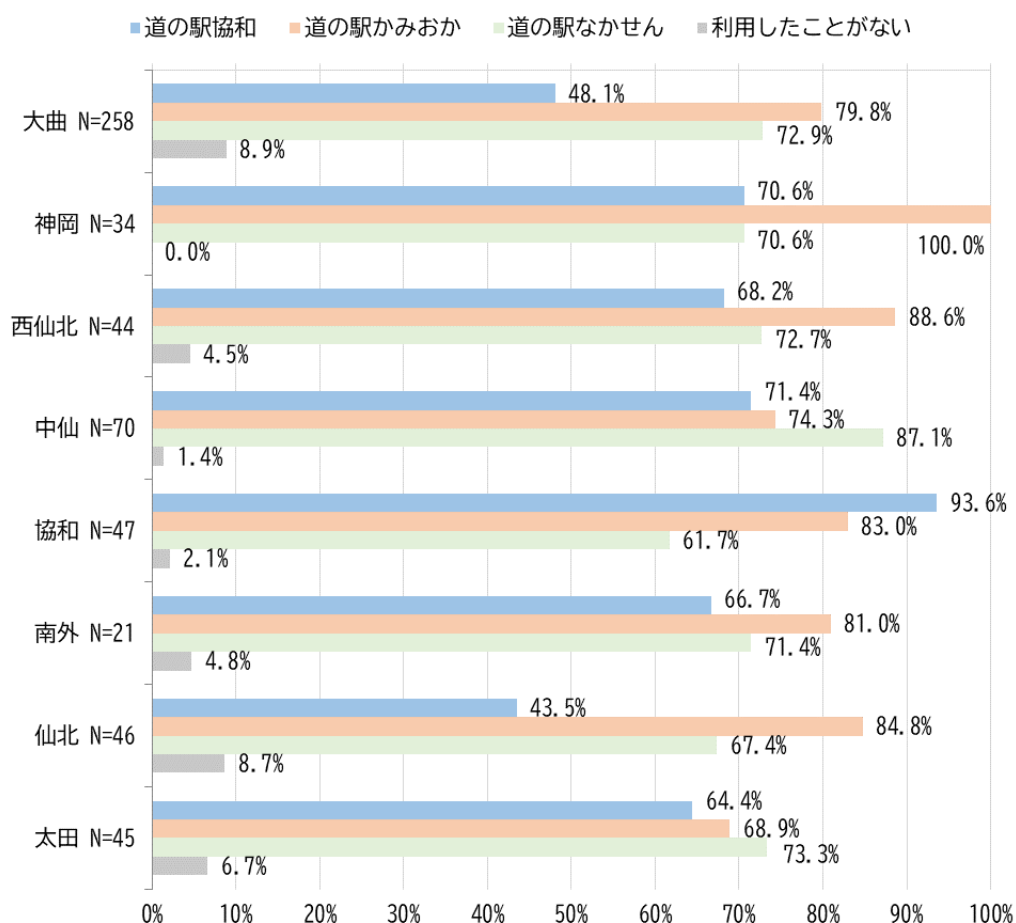


【問1】あなたは、市内の道の駅を利用したことがありますか。（複数回答可）

■年代別



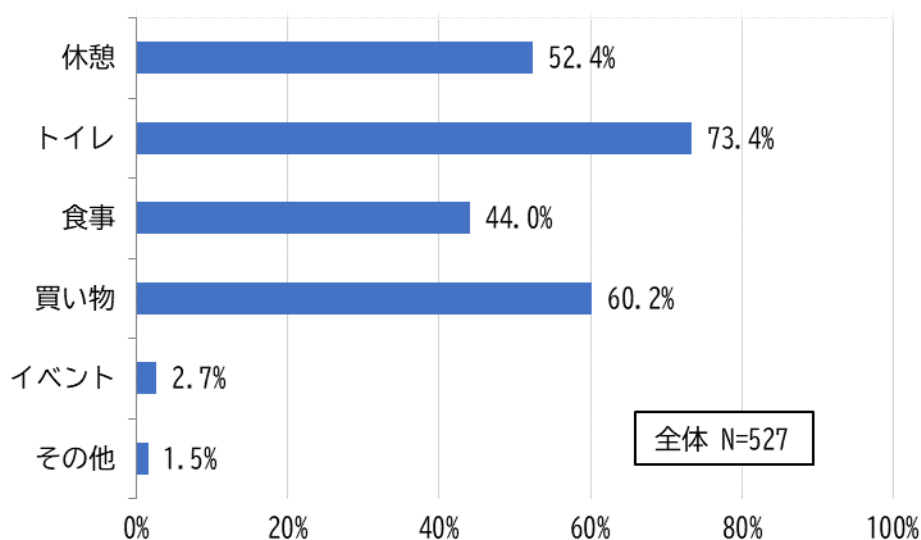
■地域別



【問2】問1で「1. 道の駅協和、2. 道の駅かみおか、3. 道の駅なかせん」を選択された方にお聞きします。道の駅を利用した時の目的は何でしたか。（複数回答可）

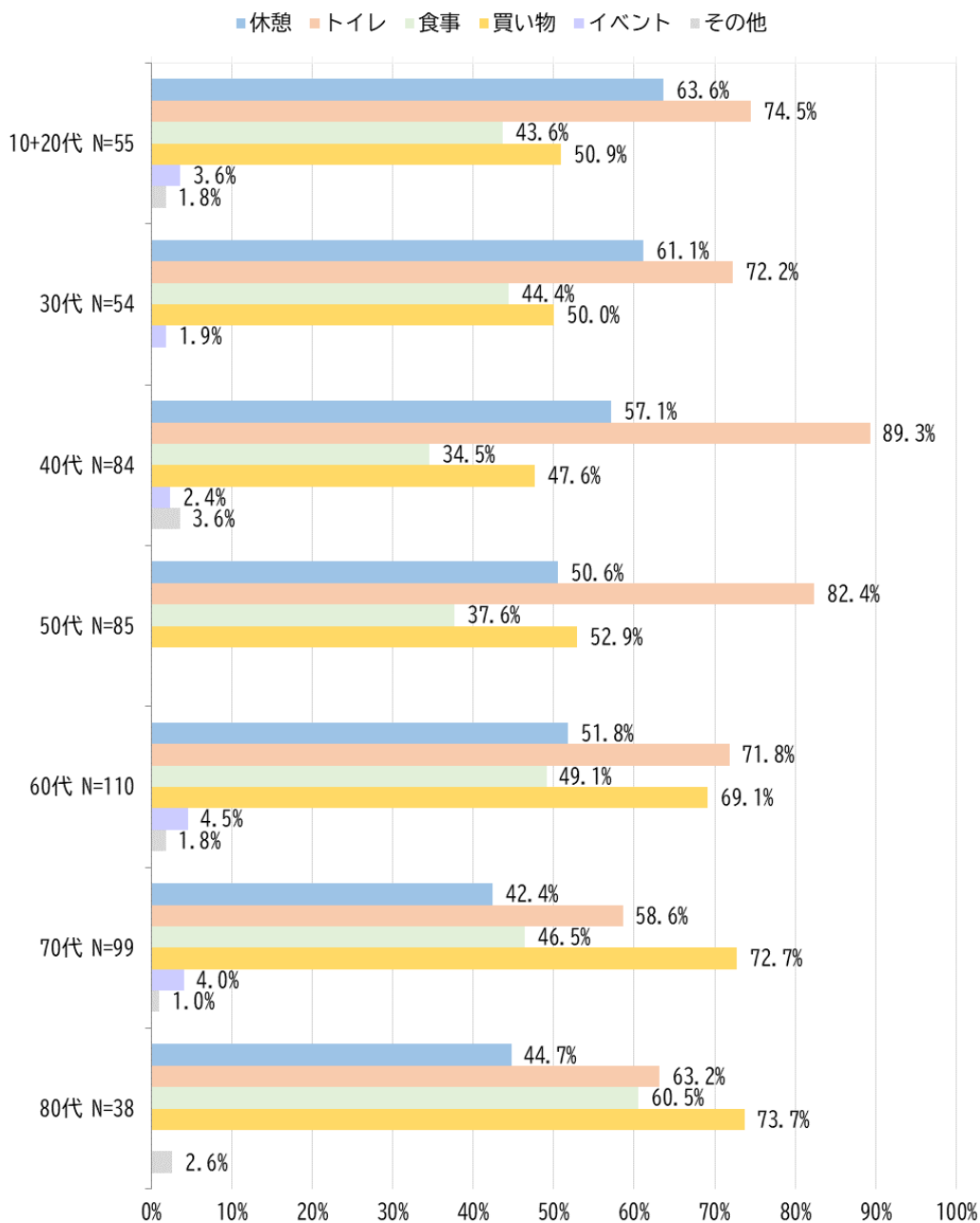
- 全体では、「トイレ」と回答した方が73.4%と最も多く、次に「買い物」と回答した方が60.2%となっている。
- 年代別では、10代から60代が「トイレ」と回答した方が最も多く、70代から80代の回答では「買い物」が最も多くなっている。また、年代が低くなるにつれて「休憩」の割合が、年代が高くなるにつれて「買い物」の割合が、それぞれ高くなる傾向が伺える。
- 地域別でも、全体と同様、「トイレ」や「買い物」の割合が高い傾向にあるが、地域によっては「休憩」や「食事」の割合が高いところもある。

■全体



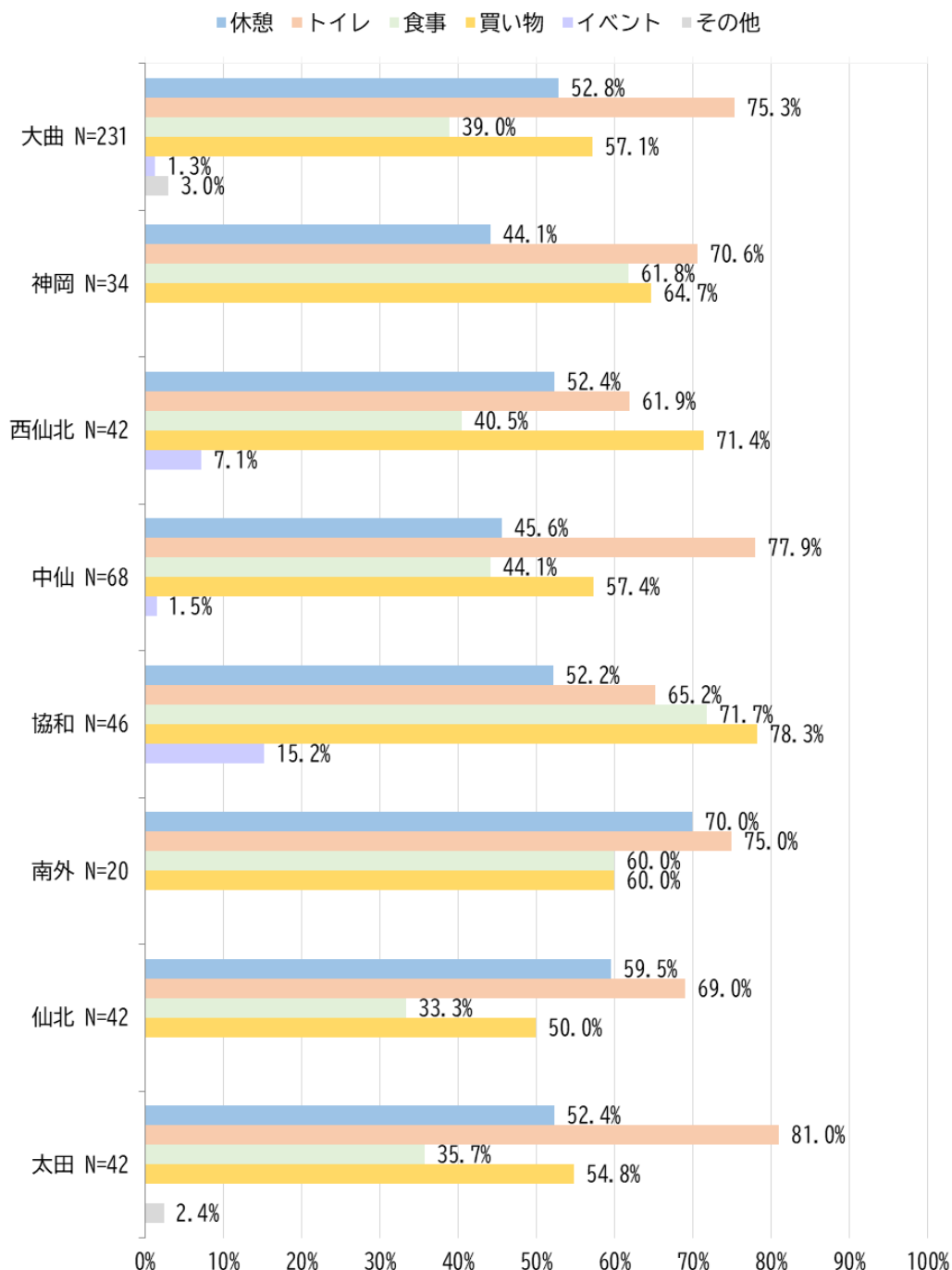
【問2】 問1で「1. 道の駅協和、2. 道の駅かみおか、3. 道の駅なかせん」を選択された方にお聞きします。道の駅を利用した時の目的は何でしたか。（複数回答可）

■年代別



【問2】問1で「1. 道の駅協和、2. 道の駅かみおか、3. 道の駅なかせん」を選択された方にお聞きします。道の駅を利用した時の目的は何でしたか。（複数回答可）

■地域別



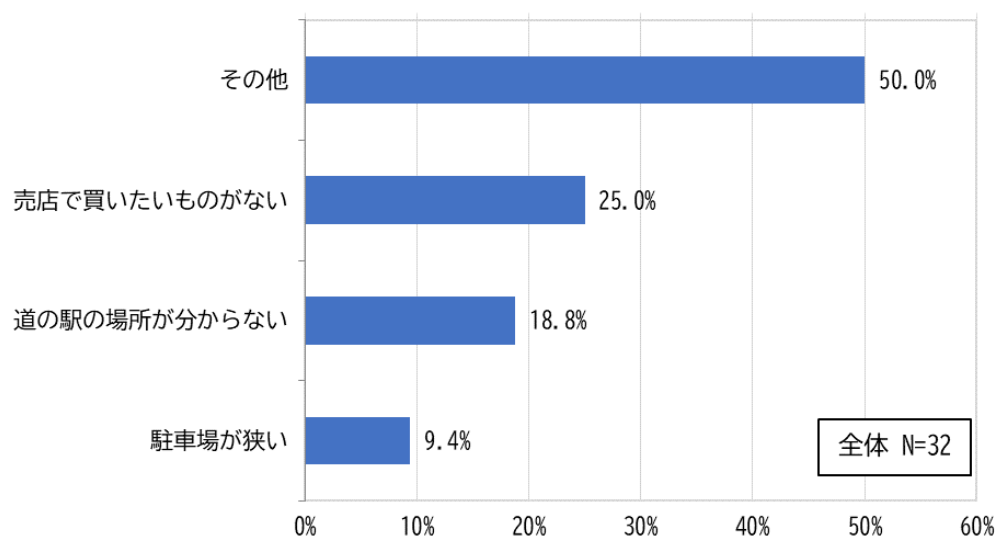
■その他の回答

- 仕事（60代／男性）
- グランドゴルフ場の利用（道の駅 協和）（70代／女性）
- 集合場所（40代／女性）
- 花きの直売出品（40代／男性）

【問3】問1で「4. 利用したことがないを選択された」方にお聞きします。
道の駅を利用したことがない理由は何ですか。（複数回答可）

○ 全体では、「その他」と回答した方が最も多く 50.0%、次いで「売店で買いたいものがない」と回答した方が 25.0%となっている。

■全体



■駐車場が狭い道の駅の回答

- 道の駅 なかせん(40代/男性、60代/男性、70代/男性)
- 道の駅 協和(10代/男性)

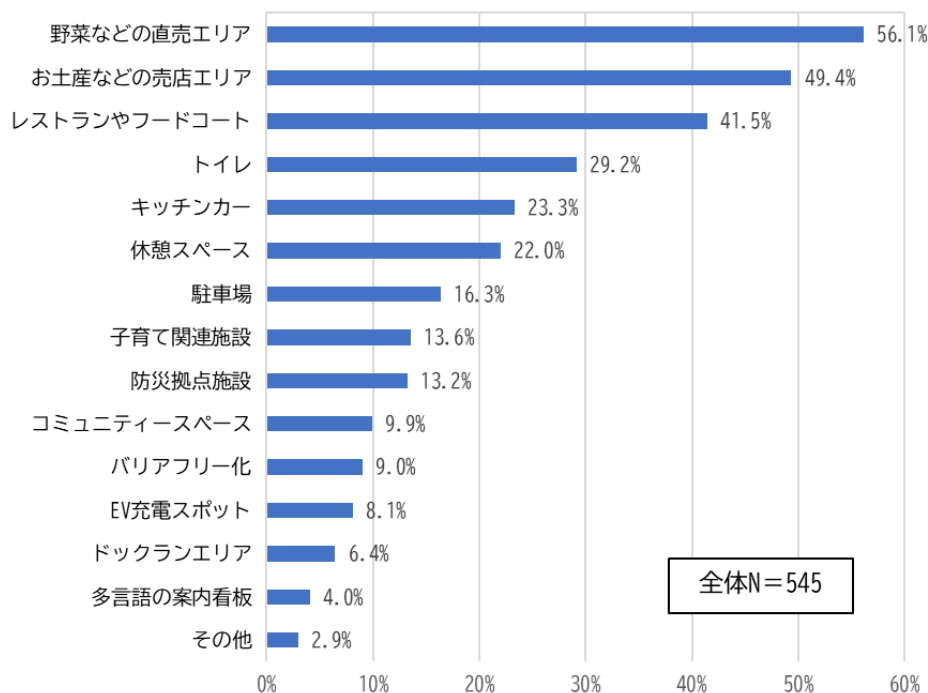
■その他の回答

- 行く用事がない。(10代/女性、20代/女性、30代/男性2人、30代/女性、50代/女性)
- 場所的によりにくい。(30代/男性)
- コンビニで足りる。(50代/女性、60代/男性)
- 目当てのものや有名なものがないと寄ろうと思わないため。(20代/男性)
- 出入りがしにくい。信号があると出入りしやすい。(40代/女性)
- 国道から見ただけでごちゃごちゃしていて車が入っていく気がしない(なかせん)。(50代/女性)
- 興味がない。(60代/男性)

【問4】道の駅で充実してほしいサービスや機能は何ですか。(複数回答可)

- 全体では、「野菜などの直売エリア」と回答した方が最も多く 56.1%、次いで「お土産などの売店エリア」で 49.4%、3 番目に多いのは「レストランやフードコート」で 41.5% となっている。

■全体



※降順で表記

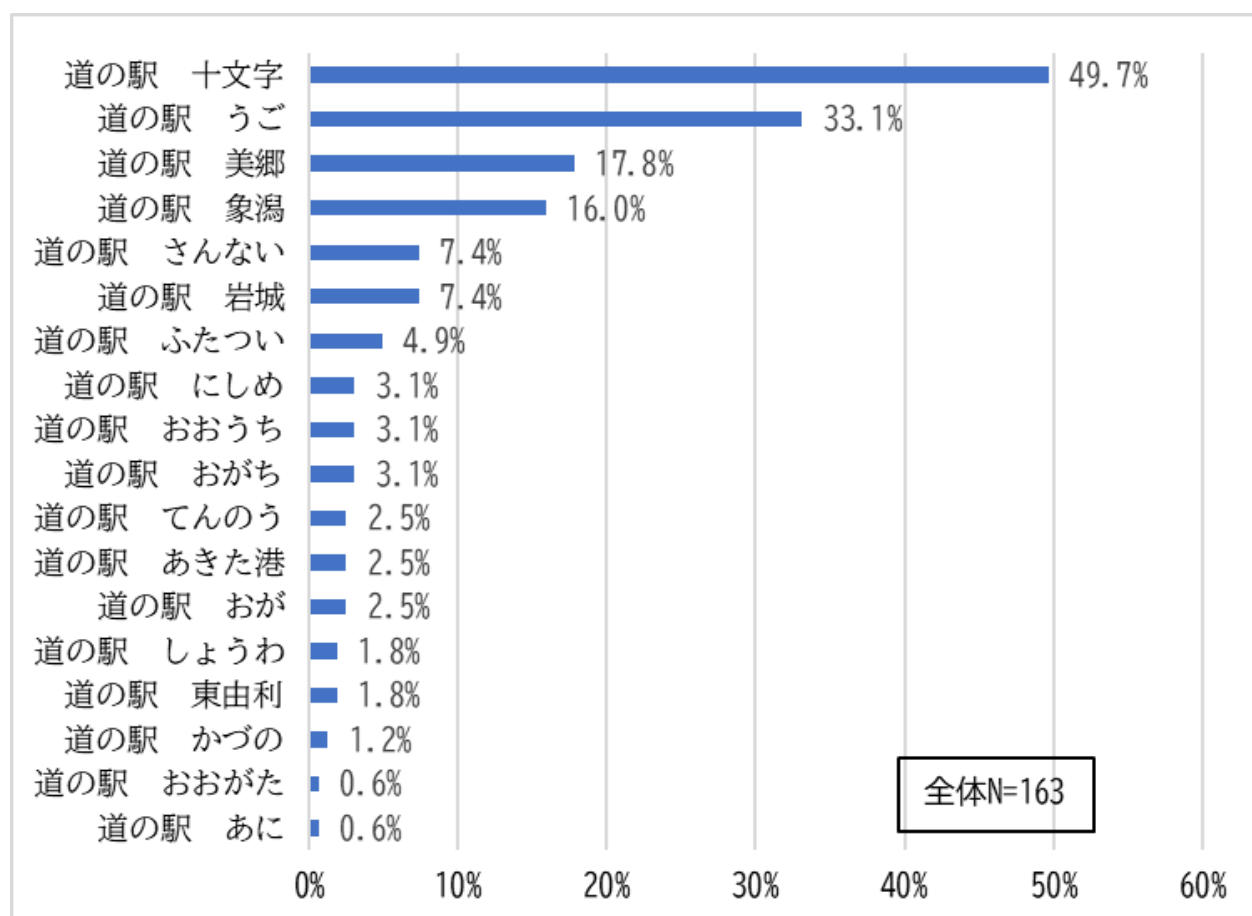
■その他の回答

- ニツ井の道の駅を参考にしたらよいと思う。(20 代／男性)
- スーパーで買える普通のお菓子もあったらうれしい。(40 代／男性)
- 大仙市の道の駅は魅力がない。(50 代／男性)
- 安くおいしい地元食材を使った食事。(60 代／男性)
- 旅行者の利便性向上。(60 代／男性)
- イベントの宣伝等あると思うが、市民に伝わっていない。(60 代／男性)
- お土産と野菜等の売り場は、同じ建物内にして欲しい(かみおか)。(60 代／女性)
- 農協出荷。(50 代／男性)
- イベントの企画、旬のものの特売。(50 代／男性)
- 売店エリアは同一事業者ではなく、定期的に入れ替えしてみてはどうか。(60 代／女性)
- 定期的なイベント開催。(50 代／男性、80 代／男性)
- そこに行かなければ買えないもの。(50 代／女性)

【問5】よく利用する市外の道の駅、または訪れてみたい道の駅があれば教えてください。
(自由記載)

■市外の道の駅（県内）

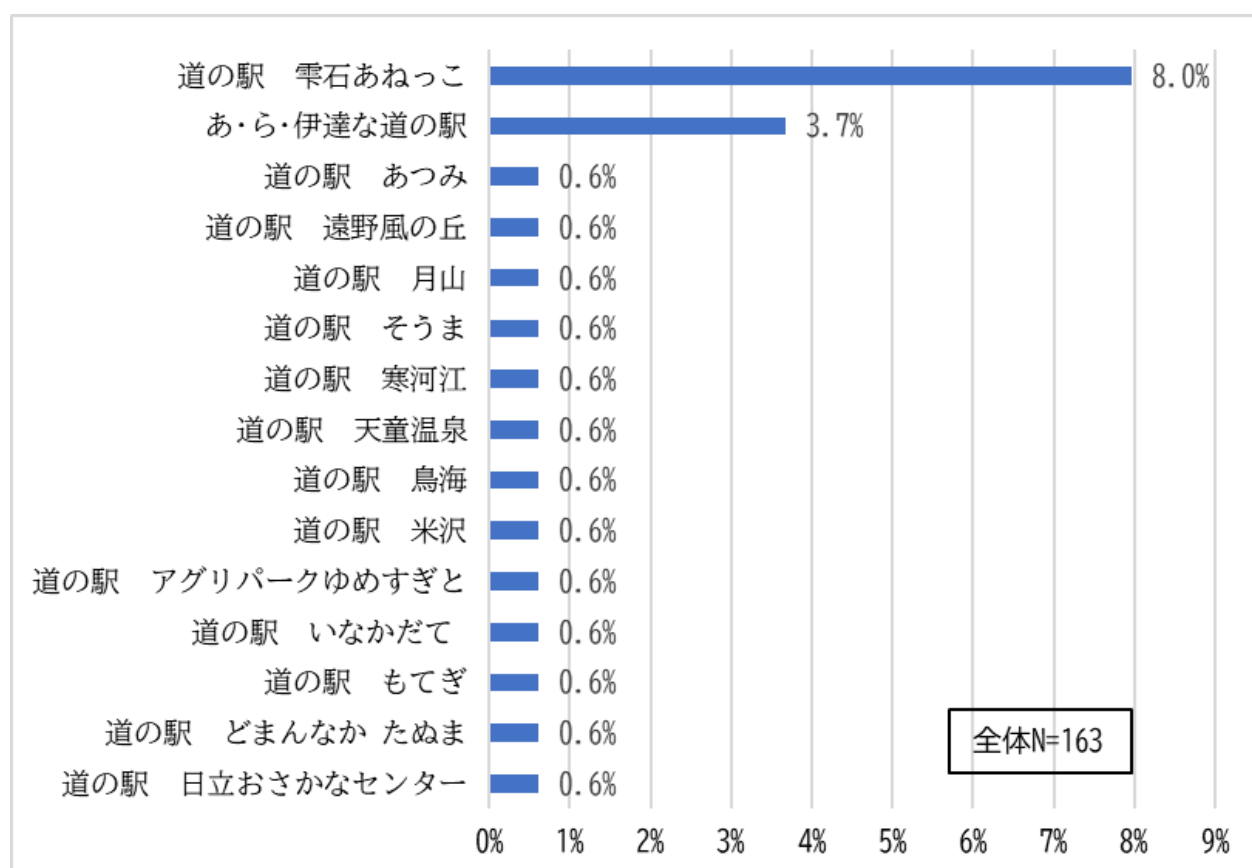
● 道の駅 十文字	81 票
● 道の駅 うご	54 票
● 道の駅 美郷	29 票
● 道の駅 象潟	26 票
● 道の駅 さんない	12 票
● 道の駅 岩城	12 票
● 道の駅 ふたつい	8 票
● 道の駅 にしめ	5 票
● 道の駅 おおうち	5 票
● 道の駅 おがち	5 票
● 道の駅 てんのう	4 票
● 道の駅 あきた港	4 票
● 道の駅 おが	4 票
● 道の駅 しょうわ	3 票
● 道の駅 東由利	3 票
● 道の駅 かづの	2 票
● 道の駅 おおがた	1 票
● 道の駅 あに	1 票



【問5】よく利用する市外の道の駅、または訪れてみたい道の駅があれば教えてください。
(自由記載)

■市外の道の駅（県外）

● 道の駅 雫石あねっこ	13 票
● あ・ら・伊達な道の駅	6 票
● 道の駅 あつみ	1 票
● 道の駅 遠野風の丘	1 票
● 道の駅 月山	1 票
● 道の駅 そうま	1 票
● 道の駅 寒河江	1 票
● 道の駅 天童温泉	1 票
● 道の駅 鳥海	1 票
● 道の駅 米沢	1 票
● 道の駅 アグリパークゆめすぎと	1 票
● 道の駅 いなかだて	1 票
● 道の駅 もてぎ	1 票
● 道の駅 どまんなか たぬま	1 票
● 道の駅 日立おさかなセンター	1 票



【問5】よく利用する市外の道の駅、または訪れてみたい道の駅があれば教えてください。
(自由記載)

■自由記述

- 雫石の道の駅は温泉があって滞在しやすい。
- 羽後とかにそばを食べに行きます。大仙でも、それ以上の魅力があると思います。
R105 南外あたりに温泉のある道の駅もいいかと思いますよ。
- 十文字道の駅 出店品、企画等を参考にしてほしい。(食堂、野菜の直売スペース等)
- いろんな所を利用します。トイレはどこもきれいでうれしいです。
地物野菜は必ず買っていきます。新鮮で珍しいものもいっぱいあります。
- にかほ市の道の駅象潟をよく利用します。理由はお土産の充実、温泉があるからです。
また、海が近く景色が良いのものよく行く理由の一つです。
- 市内の道の駅は”変わりばえ”してないので、ぜひ、リニューアルして欲しいです。
- 横手平鹿地区は、果物が所せましと並んでいて活気があります。
- 経営は難しいと思う。買い物の目玉商品が少ない。(特産品)
- 道の駅てんのうをよく利用する。トイレが多く、施設がまとまって集中している。
- 道の駅象潟ねむの丘によく行く。海が見える温泉がいいし、食事もおいしい。
道の駅うごに行ってみたい。そばやおいしいものがありそう。
- 十文字、あねっこなど新鮮野菜は利幅が少ないが、県外の人なども寄るので、リピーターとして、寄ってもらえるようになると思われる。
- 十文字、美郷は綺麗だし、見ていて楽しいので、道の駅へ出かけるといった感じで利用します。
- 道の駅美郷:建物の中が明るい雰囲気野菜、果物、漬物、山菜等、魅力的な品揃えとレイアウト。
そこで買った物の他に家から持参した物も同梱して箱詰めもしてくるので、とても助かる。
WAON が使えるのも便利。
- 道の駅てんのう:駐車場が広く、温泉もあり、芝生もあり、池もある。スカイタワーで街を一望できる。
周りにはいい森公園があり、良い散歩コース。大曲周辺にもこのような所があれば良いと思う。
- 雫石町あねっこによく行きます。農産物が安く種類も多く買い求めやすい。
また、温泉施設も利用しやすい。
- 羽後に行きたい。全体的に特徴がない。
- 道の駅十文字は、りんご等がたくさんあるのでよく利用します。
- 十文字、山内いずれも物産が豊富だから。
- 岩手県雫石町のあねっこをよく利用します。トイレが広く綺麗で、お土産や売店、駐車場が広いとまた利用したいと思う。
- 県南地域だと、山内、十文字、羽後。そこでしか買えないものがあるから。
道の駅かみおかは施設が古いので、新しく立てなおしてほしい。

【問5】よく利用する市外の道の駅、または訪れてみたい道の駅があれば教えてください。
(自由記載)

■自由記述

- 十文字の道の駅(直売所の野菜が豊富である)。
羽後町端縫いの郷(そばをメインとした食事処が良い)。
- 十文字の道の駅。子供が遊べる道の駅があれば行きたいです(遊具など)。
イベントがあれば行きます。
- 道の駅 てんのう:一日いてもとにかく楽しい。温泉自然をいかした遊歩道などとても工夫されている。
道の駅 おが:お土産が充実している。
- 「道の駅てんのう」醤油の焼きおにぎりがとてもおいしく必ず買います。また野菜、果物がとても豊富で
買い物をしていても楽しいです。温泉が隣にあるのもいいですね。
- 雫石あねっこ道の駅、駐車場は広いし、直売所、売店エリアに秋田のお土産もあり、さらに隣に温泉が
あるので利用する回が多い。
- 美郷:大仙市~仙北市~美郷圏内では一番いい。十文字:いつ訪れても充実している。
- 羽後、十文字、美郷、それぞれ特産品があり、品数が豊富。
- 今年の2月から毎週水曜日、午前、十文字の道の駅へ行ってます。(NHKの放映で知った。)高齢者
の歌声タイムに参加しています。
- 十文字の道の駅、雄勝の道の駅→ヤギや子供の遊び場があって楽しい。羽後の道の駅→食事ができ
る他、ジェラートが食べられる。あら伊達な道の駅→ロイズが入ってる、ピアノや展望台があって楽し
い。
- 道の駅 ふたついで:きみまちの里広々としていて清潔で快適でした。トイレ休憩に立ち寄ってもゆっくり
でき特産品も新鮮にありました。キッズコーナーも充実していました。
- 道の駅うご。(行ったことは無いが活気が有ると聞いています。)
- 道の駅羽後、道の駅十文字。(果物や野菜を購入する目的で利用している)
- 道の駅「岩城」:活魚販売所があるから、またすぐに海に足を運べるから。
- 道の駅なかせんは、階段があり、行きにくいと思います。設計のミスだと思われますので、改築するこ
ととかは出来ないのでしょうか。ご検討くださいますようお願いします。
- 羽後、山内は食事目的で行く。
- 道の駅が目的地ではないので、ありません。
- 何処とは分からないが、道の駅なかせんには八乙女温泉のように温泉か足湯があったらいい。
- 羽後町の道の駅は蕎麦が美味しいので、時折行く。
- 温泉付きの道の駅。(近くに遊具があれば良し)

◆調査結果まとめ及び今後の方針

- 問1の道の駅利用状況について、全体では、「道の駅かみおか」と「道の駅なかせん」が7割超と高い割合となった一方、「道の駅協和」は6割を切っているほか、6.2%の方は利用したことがないと答えている。また、地域別で見ると多くの地域で、居住地域にある、あるいは隣接している道の駅の利用割合が高い傾向となった。こうしたことから、市民が居住地周辺の道の駅のみならず、市内各道の駅を利用してみたいと思えるよう、また市外・県外の多くの方から訪れていただけるよう、情報発信のさらなる強化に取り組んでいく。
- 問2の道の駅を利用する目的について、全体では、「トイレ」と「買い物」の割合が高い結果となった。また、地域別に見ると、居住地近くに道の駅がある地域では「食事」の割合も高くなっていることが分かった。年代別で見ると、10代～40代は「トイレ」や「休憩」の割合が高く、ドライバーの休憩所として利用されていることが分かった。今後は、国土交通省が道の駅の新たなステージとして2020年より進めている「地方創生・観光を加速する拠点」となるよう、「買い物」や「食事」などの道の駅としての魅力を一層高める取組の検討、地域の観光資源・特産品の情報発信の強化など、市外はもちろんのこと国内外の観光客をさらに呼び込む仕組みづくりを進めていく。
- 問3の道の駅を利用したことがない方に伺った、その理由について、「その他」と回答した方が50.0%と最も多く、具体的には「行く用事がない」「コンビニで足りる」との回答であった。また、「売店で買いたいものがない」や「道の駅の場所が分からない」との回答も一定数あることが分かった。これを踏まえ、ニーズを捉えた道の駅ならではの「食事」「買い物」が提供できるような創意工夫や、発信する情報の充実に取り組んでいく。
- 問4の道の駅で充実してほしいサービスについて、「野菜などの直売エリア」や「お土産などの売店エリア」「レストランやフードコート」の割合が高く、こうしたニーズを踏まえ売店エリアの拡充や地元食材を使ったメニュー開発等を検討していく。
- 問5のよく利用する市外の道の駅、または訪れてみたい道の駅について、県内では「道の駅 十文字」や「道の駅 うご」、県外では「道の駅 雫石あねっこ」や「あ・ら・伊達な道の駅」の回答が多かった。「道の駅 十文字」は「野菜などの直売エリア」が、「道の駅 あねっこ」は「レストランやフードコート」が充実しており、これらは問4で上位項目に挙げられるサービスが備わっている道の駅であるため、回答割合が高かったものと推察される。今後は、人気のある道の駅の成功要因を参考にしつつ、地域の特色を生かした独自のコンセプトのもと、より良い道の駅の運営を目指して必要な取組をより一層推進していく。

3.1.3 市内スキー場（大曲ファミリー、協和、大台）について （観光文化スポーツ部 スポーツ振興課）

- ◆ 調査目的：健康増進や観光、スポーツの振興を図りながら市外からの交流人口拡大を図るため、市内に3つのスキー場を設置している。この調査では、市民の皆さまの市内スキー場に対するご意見を伺い、今後の運営改善や将来的なあり方などを検討していくための参考とする。

【問1】あなたが、よく利用する市内のスキー場はどこですか。（複数回答可）

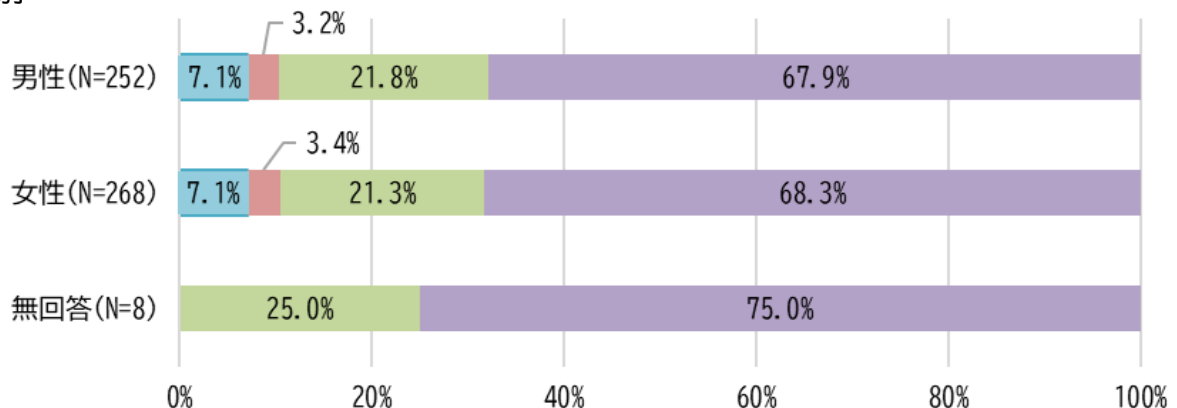
- 全体では「大台スキー場」と答えた方が21.3%と最も高く、次いで「大曲ファミリースキー場」の6.9%、「協和スキー場」の3.4%の順となっている。なお、回答者の約7割が「ほとんど利用したことがない、利用したことがない」となっており、冬期間における市内スキー場の利用状況は低い傾向にある。
- 性別では、男性、女性による差異はなく、利用状況は総じて低い傾向にある。
- 年代別では、「16～19 歳」で「大台スキー場」が最も多い 52.9%となっており、次いで「協和スキー場」の17.6%、「大曲ファミリースキー場」の回答は無しとなっている。比較的初心者向けのコースで小さい子供も楽しめる「大曲ファミリースキー場」については、「30～39 歳」の利用率が年代別で最も高く、18.6%となっている。
- 地域別では、どの年代も自身の居住地のスキー場、または居住地から近いスキー場を利用する傾向にある。

■全体

■大曲ファミリースキー場 ■協和スキー場 ■大台スキー場 ■ほとんど利用したことがない、利用したことがない

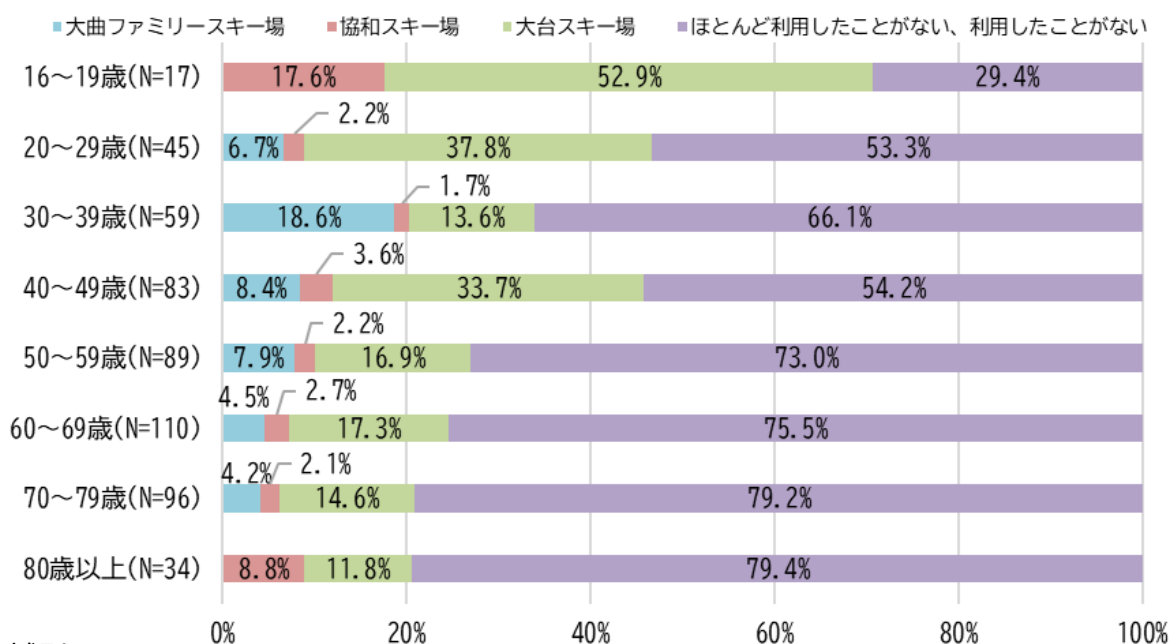


■性別

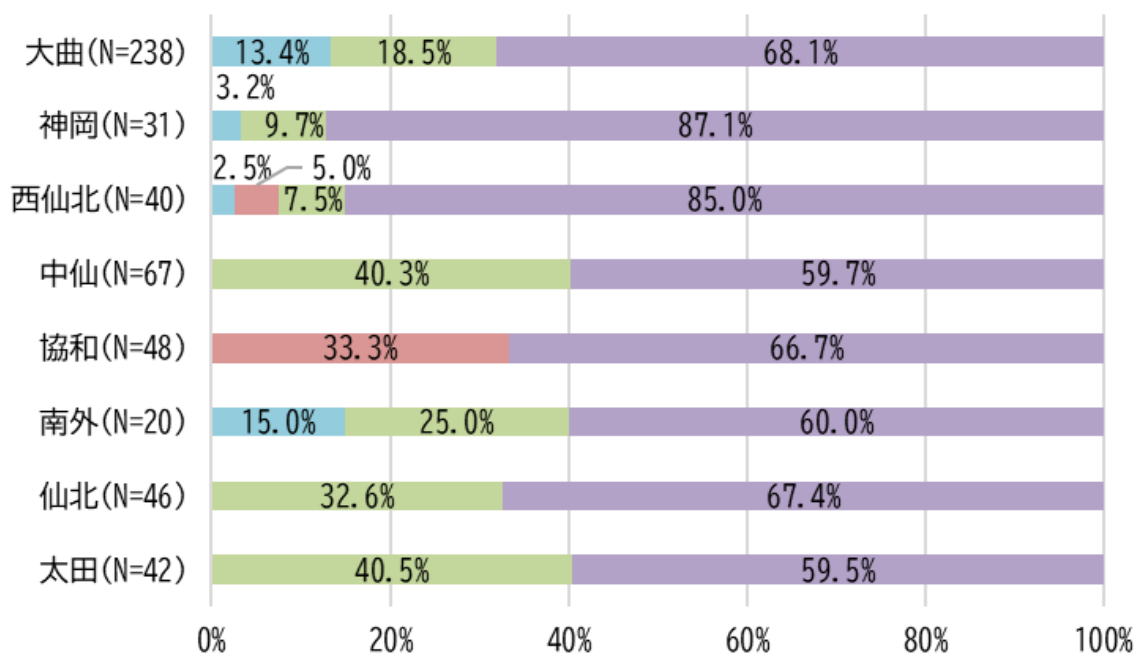


【問1】あなたは、よく利用する市内のスキー場はどこですか。（複数回答可）

■年代別



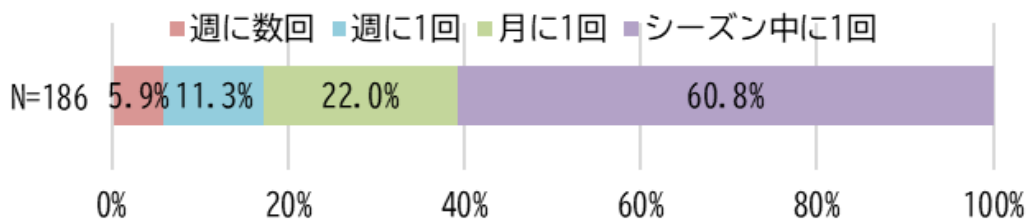
■地域別



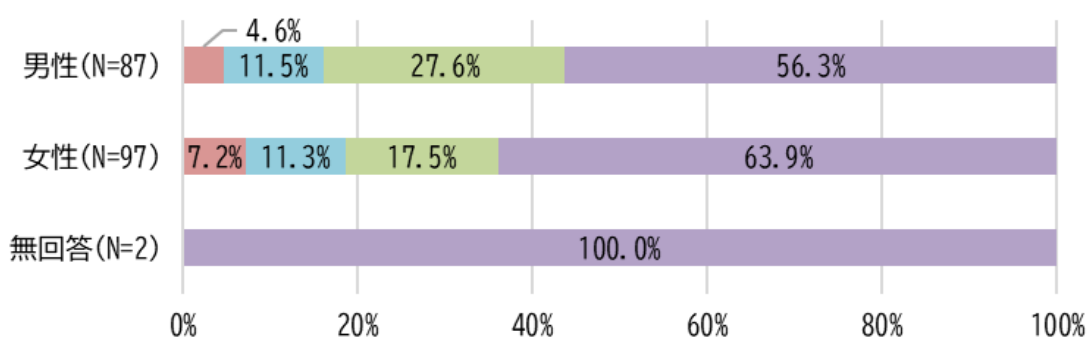
【問2】問1で「1. 大曲ファミリースキー場、2. 協和スキー場、3. 大台スキー場を選択された」方にお聞きます。あなたは、シーズン中にどのくらい利用しますか。

- 全体では「シーズン中に1回」と答えた方が60.8%と最も高く、次いで「月に1回」の22.0%、「週に1回」の11.3%、「週に数回」の5.9%の順となっている。
- 性別では、女性の方が「週に数回」と答えた割合が男性よりも2.6ポイント高い結果となっている。
- 年代別では、10代～20代においては「シーズン中に1回」と答える割合が75%以上となっており、若者のスキー場の利用率が低い傾向にある。「小・中学生ウィンタースポーツ推進事業」の対象となる小学校1年生から中学校2年生までの子供がいる、主に30代～40代のファミリー層については、他の年代と比較すると「月に1回」と答える割合が高い傾向にある。「週に数回」と答えた方で最も多い年代は「80歳以上」で、「週に1回」と答えた方で最も多い年代は「70～79歳」となっている。
- 地域別では、居住地にスキー場がある地域では「週に数回」または「週1回」と答えた方の割合が、他の地域よりも高い傾向にある。

■全体

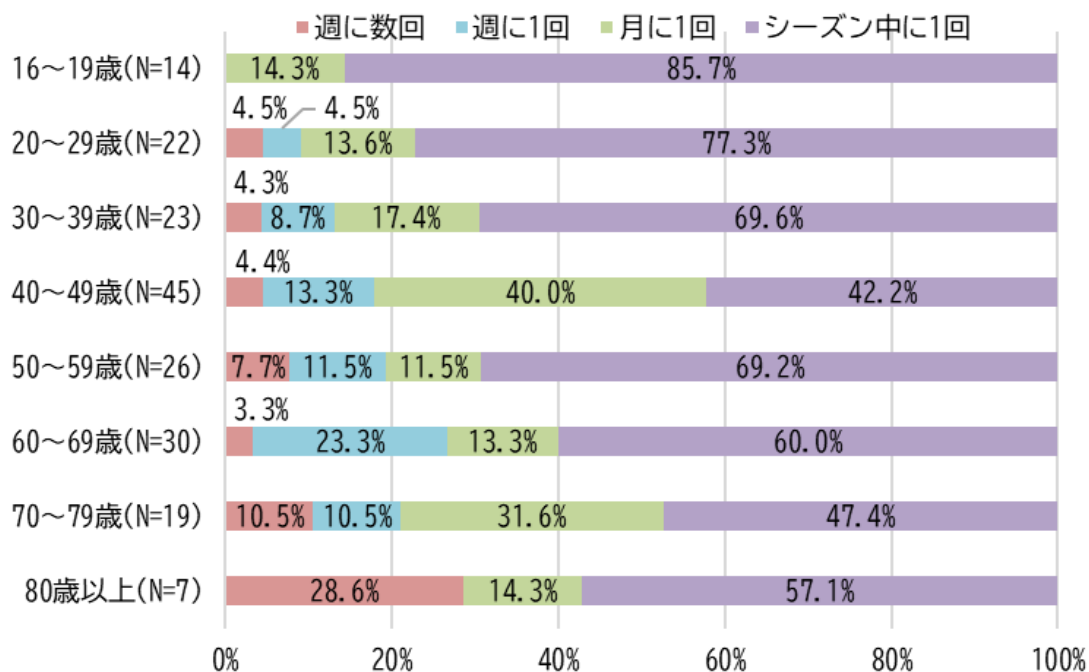


■性別

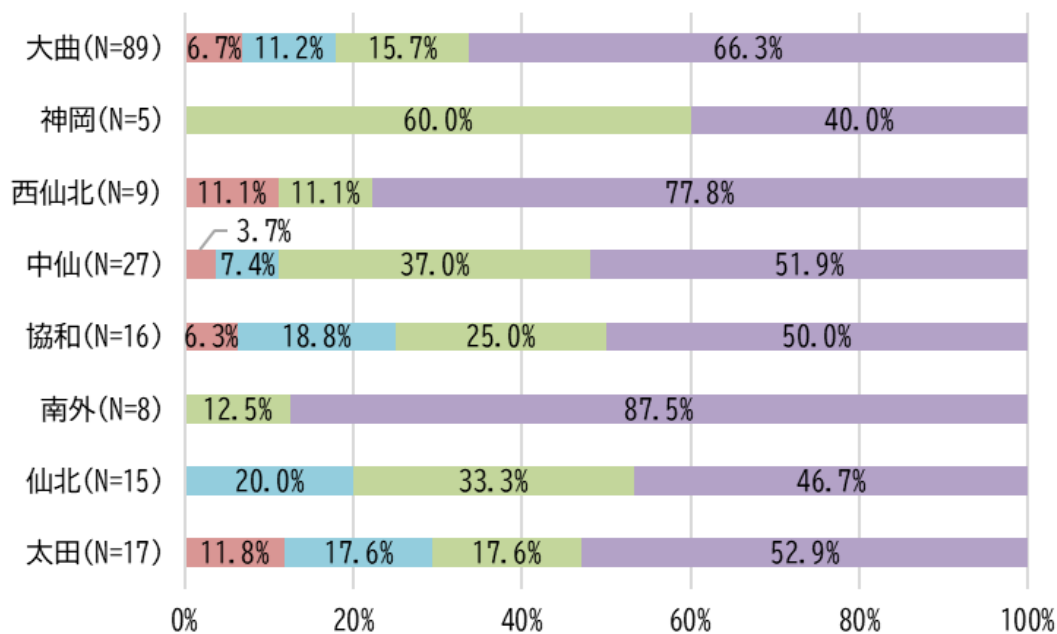


【問2】問1で「1. 大曲ファミリースキー場、2. 協和スキー場、3. 大台スキー場を選択された」方にお聞きます。あなたは、シーズン中にどのくらい利用しますか。

■年代別



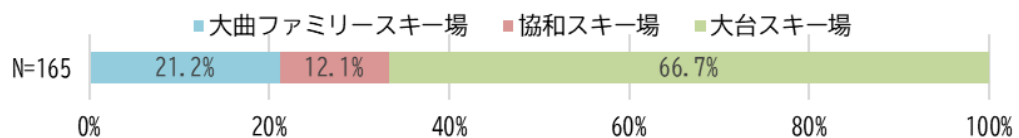
■地域別



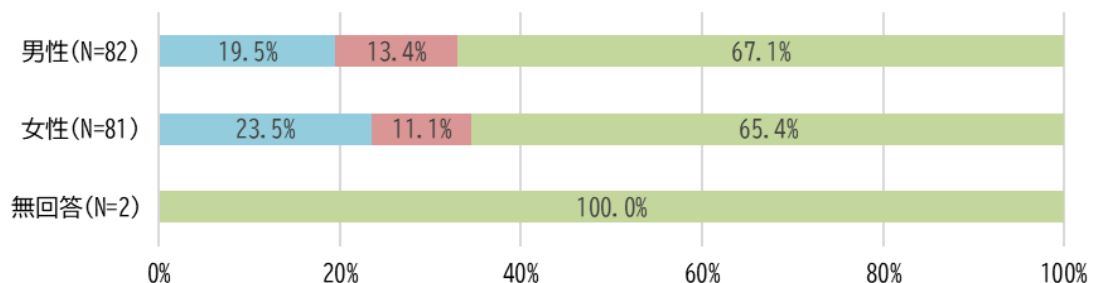
【問3】問1で「1. 大曲ファミリースキー場、2. 協和スキー場、3. 大台スキー場を選択された」方にお聞きます。今後も利用したい市内のスキー場はどこですか。

- 全体では「大台スキー場」が66.7%と最も高く、次いで「大曲ファミリースキー場」の21.2%、「協和スキー場」の12.1%の順となっている。
- 性別では、男性、女性でほぼ同じ結果となっている。
- 年代別では「16～19歳」は「大台スキー場」と回答した方が100%となっており、「60～69歳」は「大曲ファミリースキー場」、「80歳以上」では「協和スキー場」と回答した方が最も多い結果となっている。
- 地域別では、大曲、神岡、南外地域で居住地から近い「大曲ファミリースキー場」と回答した割合が他の地域と比較して高いものの、協和地域以外は最も割合が高いのは「大台スキー場」となっている。協和地域は「協和スキー場」と回答した割合が100%である。

■全体

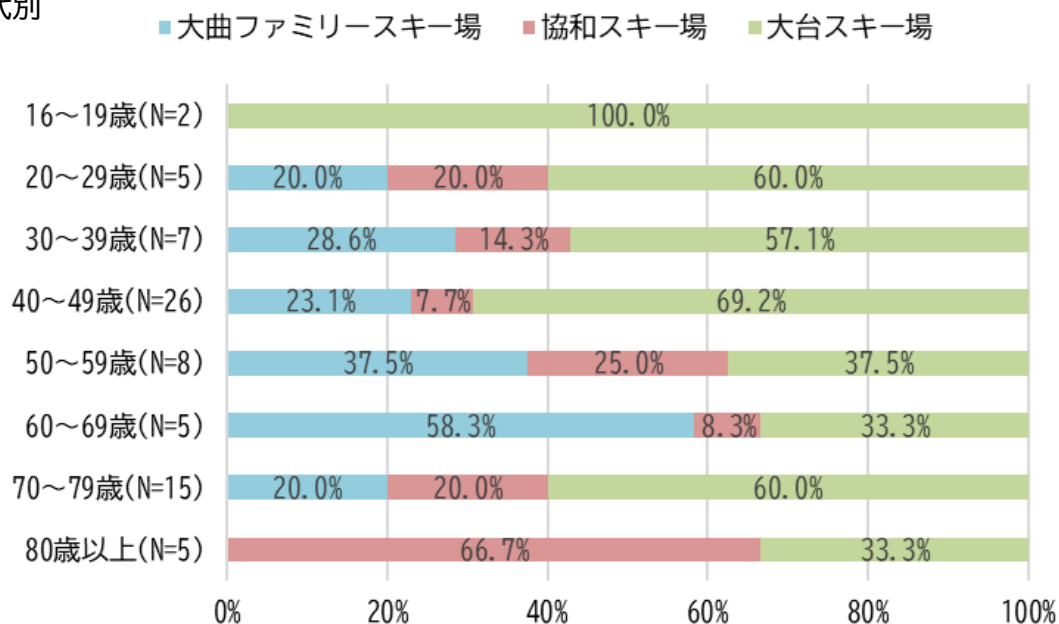


■性別

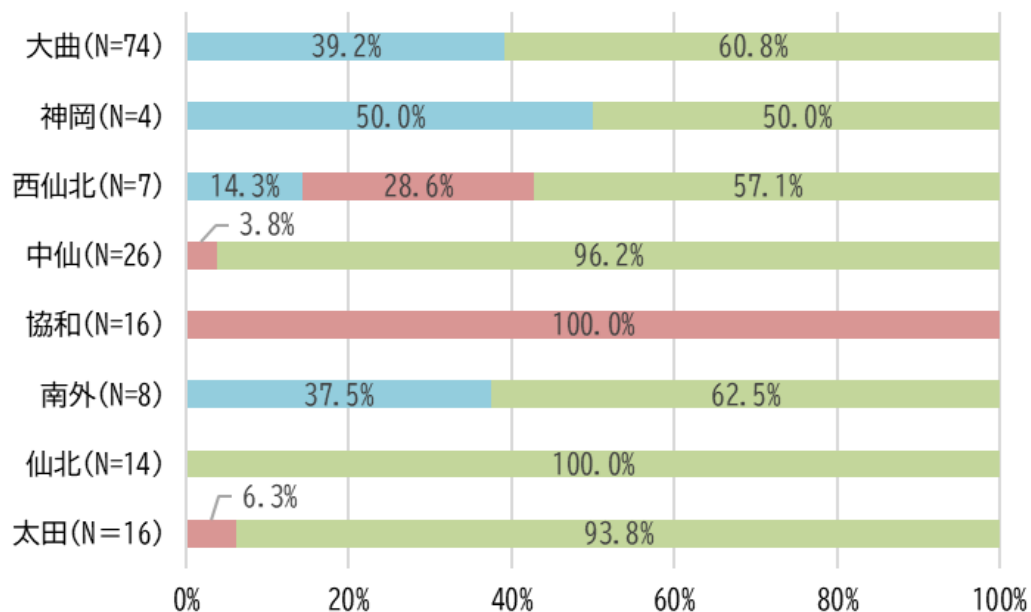


【問3】問1で「1. 大曲ファミリースキー場、2. 協和スキー場、3. 大台スキー場を選択された」方にお聞きます。今後も利用したい市内のスキー場はどこですか。

■年代別



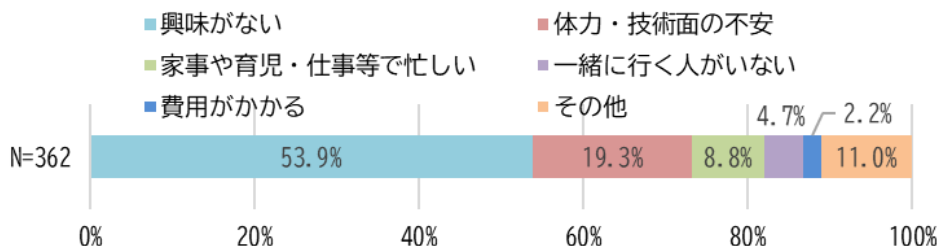
■地域別



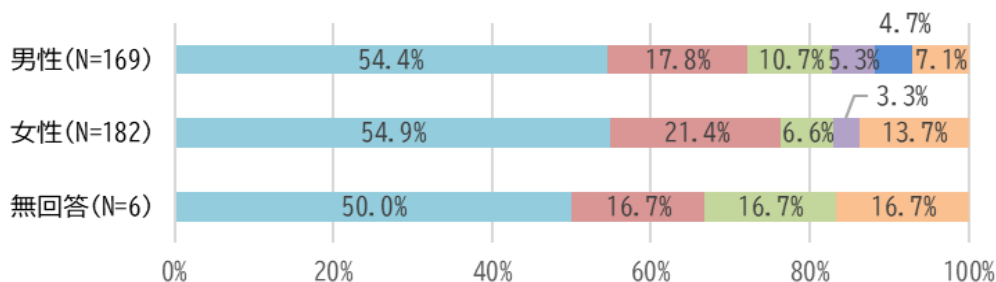
【問4】 問1で「4. ほとんど利用したことがない、利用したことがない」方にお聞きします。市内スキー場に行かなかった理由は何ですか。

- 全体では「興味がない」が53.9%と最も高く、次いで「体力・技術面の不安」の19.3%、「その他」の11.0%、「家事や育児・仕事等で忙しい」の8.8%、「一緒に行く人がいない」の4.7%、「費用がかかる」の2.2%の順となっている。
- 性別では「家事や育児・仕事等で忙しい」と答えた割合が、女性よりも男性の方が4.1ポイント高い結果となっている。
- 年代別では、10代以外は「興味がない」が最も高くなっている。30～40代のファミリー層では「興味がない」に次いで「家事や育児・仕事等で忙しい」の割合が、50代以上では「体力・技術面の不安」の割合が、2番目に高くなっている。
- 地域別では、居住地にスキー場がある地域（大曲、協和、太田地域）であっても「興味がない」と答えた方が50%以上を占める結果となっている。

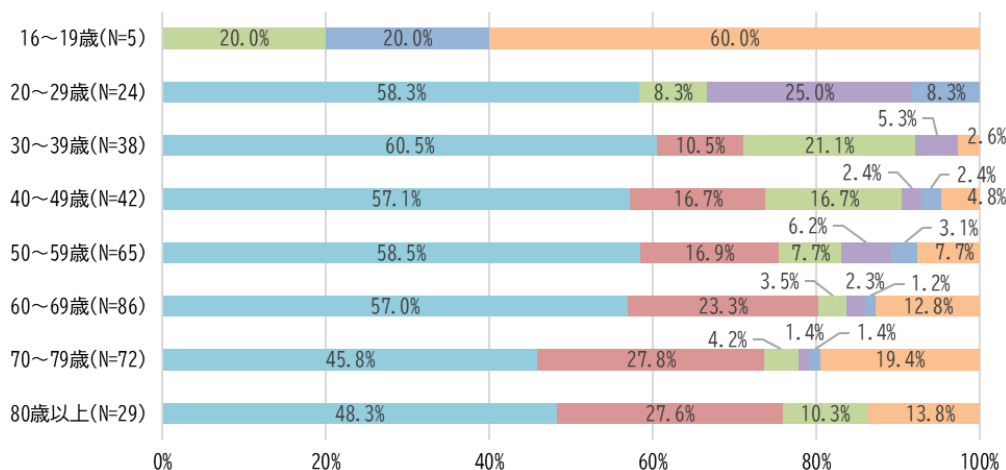
■全体



■性別

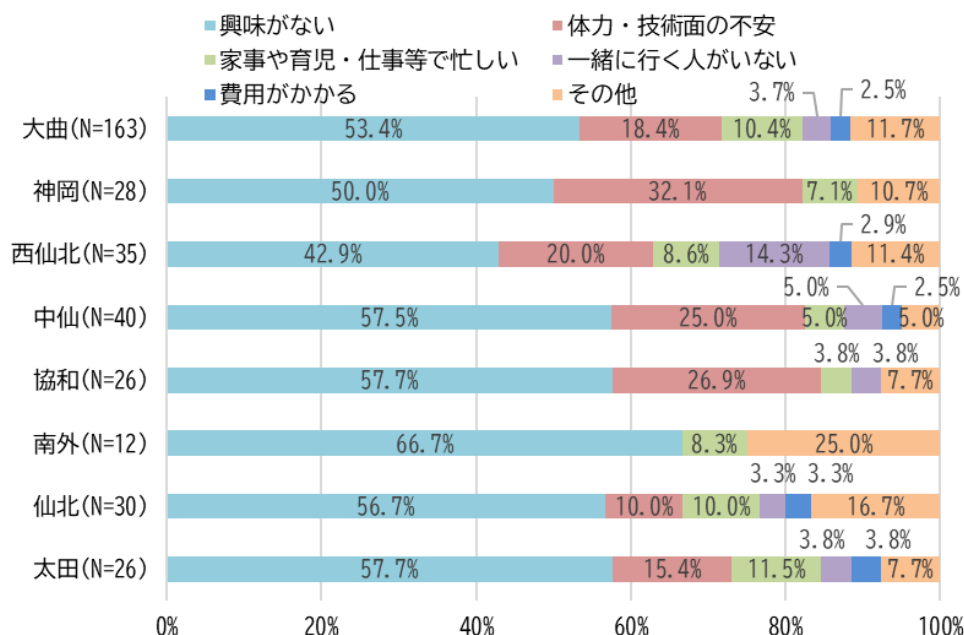


■年代別



【問4】問1で「4. ほとんど利用したことがない、利用したことがない」方にお聞きします。市内スキー場に行かなかった理由は何ですか。

■地域別



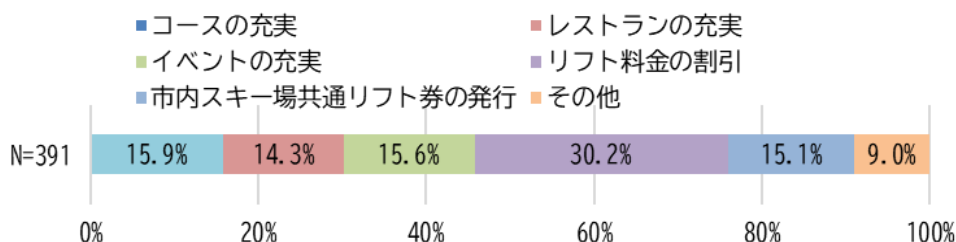
～その他の意見（要旨）～

- ・学業。（10代女性）
- ・学校の授業でしか行ったことがない。（10代男性）
- ・行く時間がない。（10代女性）
- ・苦手なので行こうと思わない。（30代女性）
- ・子どもが小さい頃はファミリーと協和へよく行った。（40代男性）
- ・スキーなどをやる機会がない。（40代女性）
- ・大人になってからはなかなか足が向かない。（40代女性）
- ・積雪状況等の問題。（50代女性）
- ・子どもが大きくなったので行くことはない。（50代女性）
- ・スキーしないため。（50代女性）
- ・中学まではスキーをしていたが、社会人になってやめた。（50代男性）
- ・疾患があるためスキーが出来なくなった。（60代女性）
- ・リフトが利用しづらい。（70代男性）
- ・昔は大曲スキー場に子どもと行った。（70代女性）
- ・高齢のため。（80歳以上女性）

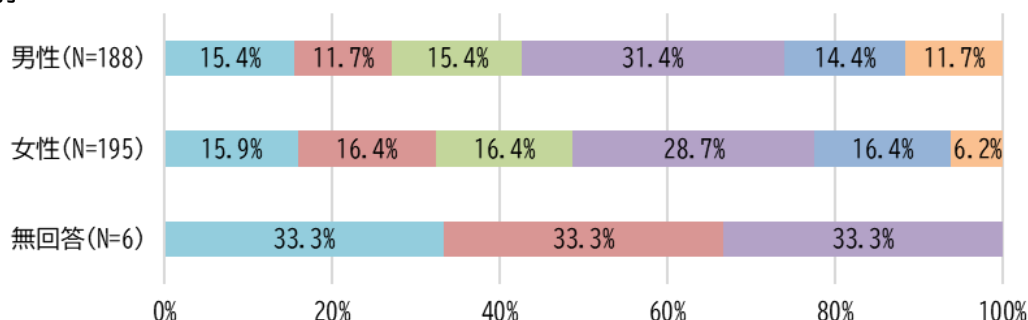
【問5】 今後、市内のスキー場に取り組んでほしいことは何ですか。

- 全体では「リフト料金の割引」が30.2%と最も高く、次いで「コースの充実」の15.9%、「イベントの充実」の15.6%、「市内スキー場共通リフト券の発行」の15.1%、「レストランの充実」の14.3%、「その他」の9.0%の順となっている。
- 性別では「レストランの充実」と答えた割合が、男性よりも女性の方が4.7ポイント高い結果となっている。
- 年代別では、50～59歳については「イベントの充実」と回答した割合が28.8%と、ほかの年代よりも高い結果となっている。
- 地域別では、コースの充実と答えた方が最も多いのは「南外地域」で26.7%、次いで「協和地域」の22.6%、「神岡地域」「仙北地域」「大曲地域」の順となっている。

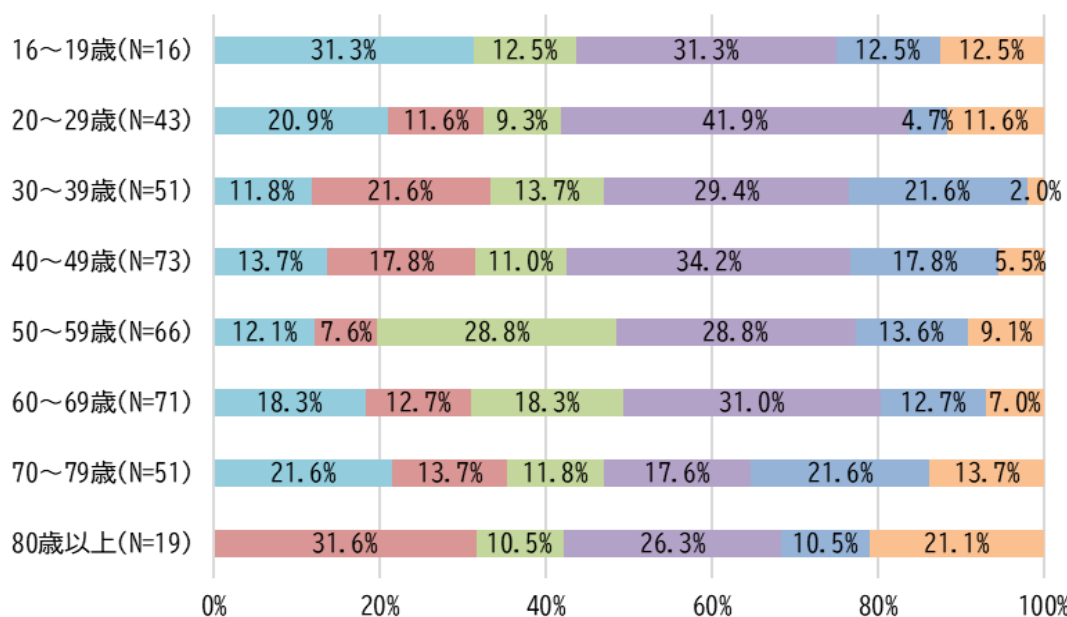
■全体



■性別

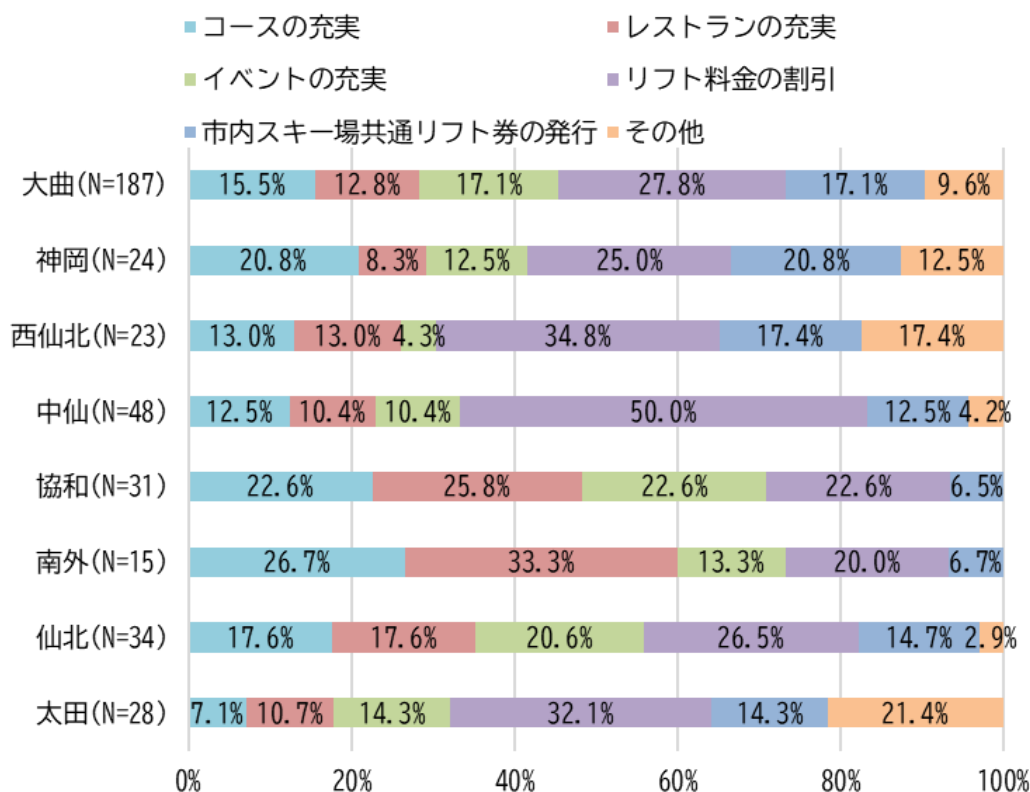


■年代別



【問5】 今後、市内のスキー場に取り組んでほしいことは何ですか。

■地域別



～その他の意見（要旨）～

- ・ 冬以外の活用、遊具の設置、景色の良い所にブランコ（20 代男性）
- ・ 人がごみごみしないスキー場、お店充実（40 代女性）
- ・ 自動販売機（飲み物）（50 代女性）
- ・ 赤字経営は辞めた方がよい（50 代男性）
- ・ ジジ、ババ、孫、ファミリー用のゴムボートの用なものに乗って遊べるウォータースライダーのような安全なコース（60 代女性）
- ・ 廃止（70 代男性）
- ・ 4 人乗りリフトなどの利便性（70 代男性）
- ・ 行かないのでわからない（70 代男性）
- ・ 1 ～ 5 を網羅した集客努力（70 代男性）
- ・ スキー客以外にも充実した場所になってもらいたい（70 代男性）
- ・ イベント的な取り組みもあっていいのではないかと（80 代女性）

《調査結果のまとめ及び今後の方針》

- 問1の「よく利用するスキー場」については、「大台スキー場」が最も多く、次いで「大曲ファミリースキー場」「協和スキー場」の順となっているが、回答者の約7割が「ほとんど利用したことがない、利用したことがない」と回答しており、市営スキー場における利用者の減少が浮き彫りとなる結果となった。
- 市では、ウィンタースポーツの推進を図るため、県内市町村では最も多い3スキー場を運営するとともに、児童生徒を対象とした無料の共通リフト券「無料シーズン券」の発行や、各種大会の開催等を通じた利用促進に努めているものの、国内ウィンタースポーツ人口の減少や近年の降雪不足等により、スキー場利用収入の増加には至っていない状況である。加えて、各スキー場を運営するために必要不可欠なリフト、ゲレンデ整備車両（圧雪車）、スキーロッジなどの経年劣化が進んでおり、計画的な対応が必要となっている。こうした状況を踏まえ、効率的かつ効果的なスキー場運営の観点から、リピーターの定着と新規利用者の獲得に向けた取組を通じて利用促進を図るとともに、市内スキー場施設・設備の計画的な修繕等を実施していく。あわせて、今後の利用状況を見据えながら将来的な市営スキー場のあり方について検討していく。
- 問2の「シーズン中の利用頻度」については、「シーズン中に1回」と答えた方が全体の約6割となっており、冬期間におけるスキー場の利用頻度の低下がスキー場の利用減少の要因の1つであることが分かった。年代別では、特に10代～20代が「シーズン中1回」と答える割合が70%以上となっており、若者のスキー場利用の頻度が低い結果となっている。こうした結果を踏まえ、スキー場の利用頻度を上げるための取組として、前述の「無料シーズン券」を継続実施するとともに、ウィンタースポーツの楽しさを知ってもらう機会の創出など新たな取組について検討していく。
- 問3の「今後も利用したい市内スキー場」については、「大台スキー場」が最も高い結果となっている。年代別では、「大台スキー場」と回答した方は若者に多く、高齢者の方は「大曲ファミリースキー場」と回答する傾向にあった。地域別では最寄りのスキー場を利用している傾向が伺えた。こうした結果から、最寄りのスキー場以外の市内スキー場の利用も促進するため、各スキー場のPRに努めていく。
- 問4の「市内スキー場に行かない理由」については、「興味がない」が最も高く全体で53.9%となっている一方で、残りの約5割は興味の有無に関わらず、利用していない層となっている。また、地域別では、居住地にスキー場がある地域においても「興味がない」と答えた割合が高い傾向となっている。こうした結果を踏まえ、市民からウィンタースポーツへの興味・関心を持ってもらえるような取組を検討するとともに、情報発信に努めていく。
- 問5の「今後市内スキー場に取り組んでほしいこと」については、「リフト料金の割引」が最も高い結果となっており、次いで「コースの充実」「イベントの充実」となっている。こうした結果を踏まえ、スキー場の利用頻度の向上と新規顧客の獲得に向け、ウィンタースポーツを目的としない方も含めて楽しめるイベントの開催等を検討していく。あわせて、昨年12月の秋田・台湾間のチャーター便運行再開を契機と捉え、雪に親しみのない外国人をターゲットとした冬期間のインバウンド獲得策についても検討していく。